

■ 令和5年度 ■

支部活動等助成事業報告書



大阪生活サポート協会

はじめに

平素は、支部（事業所等）の皆様方のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会（以下「大阪生活サポート協会」という。）は、知的障がい児者・発達障がい児者とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的としています。（令和6（2024）年度より「生活サポート総合補償制度」の加入要件に発達障がい児者を加えることになりました。）

生きづらさを抱えた方たちが当たり前「自分らしく」生きることの出来る環境づくりへの「いとなみ」を積み重ねたいと考えています。ハード・ソフト両面へのアプローチであります。

支部活動等助成事業の実施目的は、上記の「環境要因へアプローチ」と「生きづらさを抱えた方たち自らがいろいろな経験を重ねてエンパワメントを図る」ことであると考えています。

事業の企画・実施に際しては、「①会員当事者主体の事業 ②地域密着型 ③会員当事者を取り巻く「人」への啓発・育成に係る事業 ④誰もが暮らしやすい地域づくり」の視点を意識して、支部独自に、または他支部や地域の関係団体等との連携・協働によるもの等、職員間であれこれ話し合っていたいただければ幸いです。

支部活動等助成事業は、平成22（2010）年度から14年間実施してきました。今後も生きづらさを抱えた方たちを一番よく知る家族や支援者の方たちが核となり、支援の輪を拡げてほしい。

令和5（2023）年度の各支部での実施事業の内容を見ますと、「旅行（一泊・日帰り）、食事会、スポーツ、非常用電源装置購入、研修等」であります。また、助成事業申請支部の運営主体は「社会福祉法人が約7割、その他（NPO法人・株式会社等）が約3割」であり、徐々に拡がりが見られます。

なお、支部活動等助成事業について認知不十分の支部が多数あると考えられます。今後、当協会事業の充実、発展に向けて密接な協力関係にあるジェイアイシーウエスト株式会社との連携を強化し認知度の向上に努めたいと考えています。

本報告書の資料編（巻末）に「大阪生活サポート協会事業の概念図」を掲載しています。大阪生活サポート協会事業の全体像をご理解いただき、事業の一つである支部活動等助成事業の活用を願っています。

平成元（1989）年度にスタートした共同生活援助（以下、グループホーム）入居者数が、今や施設入所支援の利用者数を超え、令和5（2023）年3月国民健康保険団体連合会のデータによると17万1651人です。地域にあるグループホームの運営主体は、社会福祉法人をはじめNPO法人、株式会社等様々であります。グループホームには、重度障がい者や高齢障がい者も多数暮らしています。入居者の生活支援に従事する方々の多くは、グループホームの存在する地域で暮らし、自ら希望して支援されています。グループホーム入居者と共に時間を過ごす日々の生活の中では、困ったり、悩んだり、迷ったりなど、判断に苦しむ場面に直面することが多々あるでしょう。

入居者の権利擁護の観点から、当協会会員の利用する支部を通じて、グループホームの実態把握を、そして実態に基づいた「支援マニュアル」の作成に取り組みたいと切に願っています。

是非、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和6（2024）年7月吉日

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

目次

はじめに

I 支部活動報告

| | | |
|---------------------|---------------------|----|
| 1 (社福) 武田塾 | 高井田苑…………… | 1 |
| 2 (社福) 路交館 | ういず滝井…………… | 2 |
| 3 (社福) ゆうとおん | ゆうとおん…………… | 3 |
| 4 (社福) 大阪府障害者福祉事業団 | じょぶライフだいせん…………… | 5 |
| 5 (社福) 大阪手をつなぐ育成会 | 支援センターねぎぼうず…………… | 6 |
| 6 (株) Cocofeel | ミーサ…………… | 7 |
| 7 (社福) 大阪手をつなぐ育成会 | 支援センター中…………… | 8 |
| 8 (社福) ひびき福祉会 | アクティビティセンターひびき…………… | 10 |
| 9 (社福) 北摂杉の子会 | 萩の杜…………… | 11 |
| 10 (株) アベリア企画 | ハミガキ広場…………… | 13 |
| 11 (一社) 惣 | アトリエSUYO…………… | 14 |
| 12 (一社) 穩穩 (のんのん) | のんのん…………… | 16 |
| 13 (NPO) ナポレオンフィッシュ | ナポレオンフィッシュ…………… | 17 |
| 14 (社福) 摂津宥和会 | 摂津市立みきの路…………… | 18 |
| 15 (社福) みきた福祉会 | みきた作業所…………… | 20 |
| 16 (株) オールケア旭 | オールケア旭…………… | 21 |
| 17 (社福) 今川学園 | 今林の里…………… | 22 |
| 18 (社福) 路交館 | 桜の園…………… | 23 |
| 19 (社福) いわき学園 | いわき生野学園…………… | 25 |
| 20 (NPO) ネクスト | はぐはぐ…………… | 26 |

| | | |
|-------------------------|----------------|----|
| 2 1 (社福) 路交館 | ういず守口…………… | 27 |
| 2 2 (社福) 富翔会 | わくわく富田林…………… | 28 |
| 2 3 (NPO) チャレンジド・ネットいずみ | ととろ…………… | 30 |
| 2 4 (社福) バオバブ福祉会 | えるで…………… | 31 |
| 2 5 (社福) 恵生会 | 四季の森…………… | 33 |
| 2 6 (社福) 明星福祉会 | 芥川事業所…………… | 34 |
| 2 7 (社福) ふたかみ福祉会 | はびきの園…………… | 37 |
| 2 8 (社福) 和光福祉会 | 熊取療育園・つばさ…………… | 38 |
| 2 9 (社福) 大阪聴覚障害者福祉会 | あいらぶ工房…………… | 39 |
| 3 0 (社福) 大阪手をつなぐ育成会 | ゲーテン…………… | 41 |
| 3 1 (合同) 美ノ倉 | やすらぎの苑 中津 …… | 42 |
| 3 2 (社福) 和泉つくし福祉会 | さらの郷…………… | 43 |

II 資料

令和5年度支部活動等助成事業実施要項

令和5年度支部活動等助成事業実施支部一覧

大阪生活サポート協会事業の理念と概要

- 表紙作品 「応援幕」(大和川園 Bグループ)

令和5年度 支部活動等助成事業報告

I 支部活動報告

1 支部名：高井田苑

- ① 実施日：令和5年9月16日
- ② 実施場所：高井田苑駐車場
- ③ 対象者：生活介護利用者 49名 利用者家族 31名 職員 34名 計 114名
- ④ 実施概要・目的

「非常用電源装置の整備」

令和3年9月の台風により、施設に繋がる電線が断線し、数日間施設全館停電する被害が生じた。危機管理の想定が甘く、昼夜関わらず生活面での支援の困難さを実感し、非常用電源の整備の必要性を感じた。

⑤ 具体的内容

数日間の停電時、電気の供給が切断されたため、照明・トイレ・風呂・調理関係・電話・エアコン・パソコン等の電気で動くあらゆるものが止まり、夜間は懐中電灯で過ごす事態となった。幸い水道とガスは使えたため活用したが、利用者と職員の不安は高く、代替手段がないことの現実を知った。停電時に生活の必要な最低限の電気を供給できる発電機の整備の必要性を痛感し、購入に至った。

⑥ 成果

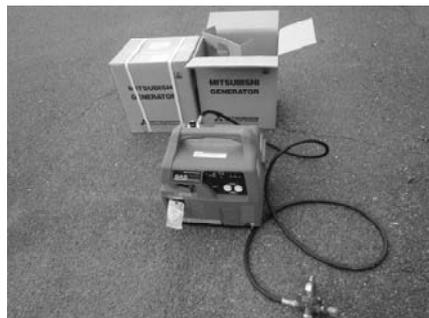
いざという時に備え、試運転を兼ねて施設行事の際に発電機を使用し稼働手順の確認・周知を行った。

⑦ 今後の展望

職員に向けて防災意識を高める周知はもちろん、避難訓練や行事等での使用実績を重ね、過去の教訓を生かして災害時での効果的な活用に役立てられるようにしたいと考える。

⑧ コロナ感染防止策

施設内でのコロナ集団感染を経験した施設として、感染予防を行いながら正しく恐れて野外にて行事開催を行った。来場者家族への看護師立会いの上での検温と体調確認、各テーブルにアルコールとペーパータオルを準備し、職員側も陰性確認の上で実施した。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|-----------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 200,000 | 非常用電源(2台) | 215,900 | |
| 自己資金 | 15,900 | | | |
| 計 | 215,900 | 計 | 215,900 | |

2 支部名：ういず滝井

① 実施日：令和5年9月28～29日

② 実施場所：淡路島

③ 対象者：利用者 21名 職員 12名 計 33名

④ 実施概要・目的

「利用者一泊旅行の実施」

メンバー同士の仲間づくり。

⑤ 具体的内容

メンバー旅行実施までに「どこに行きたいか。雨ならどうするか。何を食べたいか。」チームで動くか等、色々なことを利用者会議で決めた。「旅行に行きたい」をどのように実感していくか、利用者同士の関係、チーム作りを行った。

旅行までの過程を大事にして、みんなと一緒にできることを発見し、日々の仕事や生活の慰労、メリハリ、次のやる気アップに繋げた。旅行の取組みをすることで自分たちで計画し、進めていくことを感じ自信に繋げることができた。

⑥ 成果

毎年の経験の積み重ねで、利用者が主体的に自分たちの旅行を計画し、進めていく過程を大事にした。コロナで縮小してきた旅行だったが、今年は少し遠方に行くことができた。一番力を入れた「宴会」では生活介護の利用者が練習時には参加しなかったが、当日の宴会時では、舞台の中央で踊っていた姿がありました。イングランドの丘では、各チームごとに行動したが、時間が足りないほど満喫できた様であった。帰りのバスの中でも寝ることもなく「来年も淡路島行きたいね～来年は二泊したいね」の声が上がるほど楽しめた旅行となった。

⑦ 今後の展望

行事に追われながらも、利用者が決めていける支援（当事者主体）を目指している。

⑧ コロナ感染防止策

送迎車乗降時の手指消毒、通所時の検温、昼食介助（フェイスシールド着用）、換気。コロナ対応だけではなく、感染症対策のため毎日の清掃は塩素系消毒液で実施している。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|----------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | 宿泊料金 | 546,150 | |
| 自己資金 | 916,470 | 昼食費(2日間) | 137,280 | |
| | | バス代金 | 209,000 | |
| | | 高速代 | 24,040 | |
| | | イングランドの丘 | 12,600 | |
| | | クルーズ船 | 41,250 | |
| | | 旅行会社手数料 | 5,000 | |
| | | バス乗務員宿費 | 11,150 | |
| 計 | 986,470 | 計 | 986,470 | |

3 支部名：ゆうとおん

- ① 実施日：令和5年11月11日
- ② 実施場所：社会福祉法人 ゆうとおん ほーぷ はーと
- ③ 対象者：利用者・職員・法人関係者・地域住民 計 160名
- ④ 実施概要・目的

「ゆうとおんねん祭りの開催」

以前は毎年行っていた祭りだが、コロナ禍もあり長い間開催できずにいました。日頃つながりのある事業所さんや、地域の住民の方たち、ボランティアの方たちとの貴重な交流の場となっていましたので、まだコロナが収束したと言える状況ではありませんが、思い切って開催することになりました。

⑤ 具体的内容

模擬店・お化け屋敷・ライブステージ・貸衣装部屋・ヨーヨーすくい・一円玉落としゲームなど。

⑥ 成果

久しぶりの開催でしたが、以前の開催と変わらず他事業所の方々、地域住民の方々、ボランティアの方々が大量参加してくれて大盛況でした。

そのような中で今回特に目立ったのが若いボランティアの活躍でした。

大学生のボランティアが中心になってくれたのですが、当日校区内の中学校の生徒さんも数名飛び入りでボランティアに参加してくれて、お祭りを盛り上げてくれました。

各模擬店では、大声を出し販売を盛り上げ、お化け屋敷のお化けの役では一生懸命お化けになりきってお客さんを驚かせてくれました。ステージのコーナーでは観客としてノリノリで参加してくれ、お祭り終了後の片付けまで精一杯力を出し尽くしてくれ、最後にはみんな笑顔で「また来年も参加したいです」と言ってくれました。

地域の方たちも久しぶりの開催であったにもかかわらず、皆さん子どもを連れて参加してくれ、とても賑やかなお祭りとなりました。正直なところ、開催するまではまだコロナ禍は収束しておらず、どれくらいの方が参加してくれて楽しんでくれるのか不安もありましたが、お祭り終了後には開催できて本当に良かったなと思えるお祭りになりました。今は是非とも来年も盛大に開催したいと考えています。

⑦ 今後の展望

コロナ禍で4年ぶりの開催となりましたが、このままコロナが収束していけば毎年継続して開催していく予定です。

⑧ コロナ感染防止策

多数の参加者が見込まれたため、食事場所は屋外に十分なスペースを用意し密にならないように配慮した。また消毒液に関しても十分な量を確保し参加者に手指消毒を徹底していただいた。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|---------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 60,000 | 模擬店関係備品 | 42,524 | |
| 自己資金 | 59,008 | 外部謝礼 | 28,000 | |
| | | 設営費 | 41,660 | |
| | | 広告費 | 6,824 | |
| | | | | |
| 計 | 119,008 | 計 | 119,008 | |

4 支 部 名：じょぶライフだいせん

- ① 実 施 日：令和5年12月2日
- ② 実 施 場 所：社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団 じょぶライフだいせん
- ③ 対 象 者：入所 40名 グループホーム 8名 短期入所 1名 家族 5名
職員 30名 計 84名

④ 実施概要・目的

「音楽鑑賞・食事会の開催」

利用者、職員、ご家族の親睦を兼ね、コロナ禍でストレスを感じている利用者の楽しみ、職員のモチベーションを向上するために実施。

⑤ 具体的内容

重度、高齢の利用者がみんなで楽しめることを目的に考えました。利用者にとっての3年間は、外出も制限され我慢の日々でした。「音タネ一座」による演奏では、大好きな音楽に合わせてリズムをとり、ステージに出て踊ってみたりと皆さんノリノリでした。身体を動かした後は、キッチンカーにてクレープ（3種類より）とコーヒー・オレンジジュースをいただき、皆さん本当に至福の笑顔でした。ゆったりした時間を設けることで、皆さんがリラックスして穏やかに過ごすことができました。

⑥ 成 果

利用者、ご家族、職員共にたくさんの笑顔と良い思い出をつくる事ができました。

⑦ 今後の展望

利用者の楽しみの一つとして音楽鑑賞と食事会を、今後も実施していきたいと思えます。利用者の思いを大事にしながら、職員間のコミュニケーションも図っていきたい。

⑧ コロナ感染防止策

事業所内を換気、マスクの着用、アルコール消毒の実施。



⑨ 収 支 報 告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|--------|---------|-----|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 | |
| 助成金 | 134,700 | キッチンカー | 66,000 | |
| 自己資金 | 0 | ドリンク | 13,200 | |
| | | 交通費 | 5,500 | |
| | | 音タネ座 | 50,000 | |
| 計 | 134,700 | 計 | 134,700 | |

5 支 部 名：支援センターねぎぼうず

- ① 実 施 日：令和5年10月6日
- ② 実 施 場 所：奈良県天理市・奈良市
- ③ 対 象 者：利用者 9名 職員 7名 家族 4名 計 20名
- ④ 実施概要・目的

「日帰り旅行の実施」

社会見学や体験を通じて人々と交流し、物づくりや食文化の歴史・大切さを学び見聞を深めるとともに、買い物や昼食を通じて社会マナーやエチケットを学ぶ。またコロナ禍で事業所とご家族との交流があまりできなかつたが、今回の日帰り旅行を通じて利用者や家族との交流を図る。

⑤ 具体的内容

シャープミュージアム見学 柿の葉寿司作り体験 昼食（バイキング） 買い物

⑥ 成 果

4年ぶりの開催でした。シャープミュージアムではシャープの歴史を通じて物づくりの大変さを学びました。柿の葉寿司作り体験では食品衛生に気をつけながら作ることができました。普段家庭で料理することがない寿司作りに利用者も頑張っており、新たな一面を見ることができました。昼食のバイキングやお土産の購入でも他のお客様に迷惑がかからないよう、気にかけて買い物を楽しまれていました。また、ご家族との交流では普段なかなかお会いしないご家族も参加され、利用者の家庭での普段の様子や事業所への思いをお聞きすることができただけでなく、事業所での様子等も伝えることができ良かった。

⑦ 今後の展望

ここ数年、コロナのためできなかった社会見学等の外出や調理実習といった行事やイベントを今後も積極的に実施していきたい。

⑧ コロナ感染防止策

バス内における換気、手指消毒の実施、マスク着用、お菓子等の回し食べの禁止等。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|-------|---------|----------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 150,000 | 日帰りバス旅行費 | 257,970 | |
| 親の会補助 | 70,000 | | | |
| 自己資金 | 37,970 | | | |
| | | | | |
| 計 | 257,970 | 計 | 257,970 | |

6 支部名：ミーサ

① 実施日：令和5年11月22日

② 実施場所：天保山（海遊館・大阪湾クルーズ）

③ 対象者：生活介護利用者 6名 職員 6名 計 12名

④ 実施概要・目的

「日帰り社会見学旅行の実施」

日頃体験できない事を、楽しみながら経験したり集団での行動などを学ぶ。

⑤ 具体的内容

10：00 天保山へ送迎バスにより到着

11：00 天保山ハーバービレッジより〔サンタマリア号〕で大阪湾クルーズ

12：00 天保山マーケットプレイス内にて自ら事前に選んだメニューにて昼食・休憩

13：00 「海遊館」を見学後、希望者はお土産購入、記念撮影

14：30 送迎開始

⑥ 成果

参加された利用者全員が乗船経験のない、今回が初体験の方ばかりで海でのクルージングの楽しさを体験してもらう事ができ、とても喜ばれていた。また、乗船する時に順番に並ぶ事や狭い船上で他の乗船客に迷惑をかけないで過ごす事なども学んでもらえた。昼食も自分自身が選んだメニューを店内で食べる楽しさや、他のお客さんに迷惑にならないよう静かに過ごす事なども学べたように思う。海遊館では暗い館内で迷子にならないように集団で移動し、自分勝手な行動をしない大切さも感じてもらえたと思う。

⑦ 今後の展望

この体験を生かして、集団行動を学び、外出先での社会生活をしっかりと行えるように、まだまだ経験していない事に対しても怖がらずに色々な体験を進んでやっていけるようになっていければと思う。

⑧ コロナ感染防止策

マスク着用ができる人には極力マスク着用してもらい、食前の手洗い、うがいをを行いアルコール消毒液も持参して消毒を行った。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|--------|------------|--------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 49,230 | サンタマリア号乗船代 | 9,600 | |
| 自己資金 | 1,046 | 海遊館入場料 | 16,200 | |
| | | 飲食・食事代 | 18,727 | |
| | | 駐車料金 | 3,600 | |
| | | お土産代 | 2,149 | |
| 計 | 50,276 | 計 | 50,276 | |

7 支 部 名：支援センター中

- ① 実施日：令和5年10月8日、11月10日、11月15日
- ② 実施場所：ユニバーサルスタジオジャパン 生活介護
和歌山マリーナシティー 就労継続支援B型
海遊館 車いす利用者
- ③ 対象者：利用者 19名 職員 11名 計 30名
利用者 16名 職員 7名 計 23名
利用者 2名 職員 2名 計 4名
- ④ 実施概要・目的

「日帰り旅行の実施」

利用者同士の交流を目的とした日帰り旅行を実施した。福祉サービス事業別及び要介護度で分かれ、利用者の希望を確認しプランを作成した。生活介護については、新型コロナウイルスにより外出する機会が減少したため、今回は、社会参加中心のプログラムを作成し実施した。就労継続支援B型は、利用者から旅行先や内容を確認し、旅行業者のアドバイスを受けプログラムを作成し実施した。また、今回は車いす利用者だけのグループを作り、自分たちのペースで旅行を楽しむプランを新たに設けた。

⑤ 具体的内容

10月8日 生活介護 ユニバーサルスタジオジャパン 電車及び公用車で移動
グループで行動 アトラクション、パレード見学

11月10日 就労継続B型 和歌山マリーナシティー 観光バス

2グループに分かれて行動。黒潮市場、黒潮温泉

11月15日 車いす利用者のみ 海遊館、天保山マーケットプレイス 公用車

⑥ 成果

生活介護については、新型コロナウイルス感染症が5類に変わり、集団での行動は久しぶりであった。集団での行動については、過去の経験が活かされたのか、集団から離れることもなく行動ができており個々がアトラクション、パレード、ショッピングを楽しんだ。電車を利用したグループについては過去、切符購入支援を行ったことにより、ほとんどの利用者が覚えており、スムーズに購入及び改札利用ができた。

就労継続支援 B型については、利用者が希望する行先、内容を支援員が確認し、旅行会社にプランを作成してもらった。現地では、3グループに分かれて行動する予定であったが、雨天のため急遽変更になったが、変更したプランを理解し行動・活動ができていた。利用者からの感想として「マグロの解体ショーがすごかった」「また雨やっただけど楽しかった」「ご飯がおいしかった」「お土産を買う事ができて良かった」など様々な感想をいただいた。

車いす利用者については、初めての取組であったが、集団ではなく小グループで無理せず1つ1つの取組をゆっくり時間をかけ、利用者のペースで観光ができたことが良かった。

⑦ 今後の展望

自分たちの旅行という意識は定着している。生活介護については、様々な行き先や取組みを体験し社会参加することで、個々の利用者の成長につながると思われる。就労継続支援B型については、自分たちで楽しみ自分たちで行ける旅行を目的として、場所や費用、内容を考えてもらえるように支援を行う。

両事業利用者で感じることとして、新型コロナウイルスの影響により、長時間外出制限がかかった影響からか、以前より歩行力が低下している。今後、普段のプログラムの中で歩行力の向上に努めたい。

⑧ コロナ感染防止策

当事業所は、現在利用者に対しマスクの着用をお願いしている。また、食前の手洗い及び消毒は日課の中で取り入れており、日帰り旅行でも同じ対応を行った。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|--------|---------|-----------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 150,000 | 入園料 | 150,400 | |
| 自己資金 | 328,900 | 食事代(各班合計) | 199,550 | |
| 福祉バス補助 | 51,500 | 駐車料金 | 7,200 | |
| | | 海遊館 | 5,400 | |
| | | 貸切バス代 | 112,200 | |
| | | 有料道路代 | 13,200 | |
| | | 企画経費 | 14,850 | |
| | | マリーナシティー | 27,600 | |
| 計 | 530,400 | 計 | 530,400 | |

8 支部名：アクティビティセンターひびき

- ① 実施日：令和5年10月5～6日
- ② 実施場所：兵庫県神戸方面観光 しあわせの村宿泊
- ③ 対象者：利用者9名 職員6名 計15名
- ④ 実施概要・目的

「親睦一泊旅行の実施」

外出の機会の少ない重度障がいの方の余暇と社会参加の機会とする。また、利用者同士の親睦を深める機会とする。

⑤ 具体的内容

10月5日 栗きんとん作り体験、道の駅丹波おばあちゃんの里にて買い物、しあわせの村にて入浴、宴会、宿泊 10月6日 姫路城見学

⑥ 成果

コロナ禍で3年間実施できなかった親睦旅行のため、まだ1回も旅行に行ったことのない利用者や職員がいたが、事故もなく様々な体験ができ、楽しい取り組みとなった。車いすを利用している利用者も多く、リフト付き大型バスを確保して、安全に行くことができた。

コロナ禍で人と距離を取る生活が続き、大きな行事もできない日々であったが、天気にも恵まれ、親睦を深めることができた。

⑦ 今後の展望

来年も是非継続して、実施したい。

⑧ コロナ感染防止策

旅行に行く前に全員の抗原検査と職員のPCR検査を実施し、全員の陰性を確認した。宿泊は大部屋をやめて、なるべく少人数で泊まるようにした。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|---------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 150,000 | リフト付きバス | 245,300 | |
| 自己資金 | 308,935 | 宿泊費 | 151,220 | |
| | | 昼食代 | 49,500 | |
| | | 栗きんとん体験 | 8,415 | |
| | | 旅行手数料 | 4,500 | |
| 計 | 458,935 | 計 | 458,935 | |

9 支部名：萩の杜

- ① 実施日：令和5年10月30日～11月3日
- ② 実施場所：杉の子農園、CaféBe
- ③ 対象者：利用者 約60名 地域住民 約100名
- ④ 実施概要・目的

「北摂杉の子会 収穫祭2023・子ども食堂の開催」

収穫祭は法人所有の「杉の子農園」で当法人利用者が収穫を行い、収穫物をその場で頂く体験ができる機会を作る。

CaféBeで「子ども食堂」「地域貢献」「地域交流」を目的として、利用者と共に地域の方への低価格の食事提供を行う。

⑤ 具体的内容

10月30日から11月2日までの収穫祭では、法人内の農園で育てているサツマイモを利用者が収穫し、焼き芋を作り食べていただいた。

11月3日のCaféBeでは、利用者、利用者家族、地域住民、すべての方々への焼き芋の無料配布（先着100食）と、杉の子農園の野菜を使用したカレーライスのワンコインランチの販売（先着100食）を通して、法人関係者と地域が繋がることのできる場所を作りました。名称：はにわキッチンのカレーライス販売

⑥ 成果

収穫祭では、法人内の各事業所の利用者がサツマイモの収穫や準備を手伝い、当日は焼き芋を来場者に召し上がっていただいた。杉の子農園内に机や椅子を設置し、畑の直

ぐ近くで焼き芋を召し上がり、喜んでおられました。またCaféBeで行った、はにわキッチンのカレーライス販売では、地域住民を含め約50名の方にお越しいただきました。

⑦ 今後の展望

収穫祭は、サツマイモの収穫と焼き芋を食べることがメインになっていますが、他の食材も増やしていくことができればと思っています。また、はにわキッチンのカレーライス販売では、事前のチラシ配布、ポスティング等を行っていましたが、満員の来場とはならなかったために、今後は新たな宣伝方法の検討を行っていきます。

⑧ コロナ感染防止策

感染予防の観点から、収穫祭は多人数のため法人各事業所ごとで来場日程を分けて設定しました。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|-------|---------|------------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 150,000 | 焼き芋器レンタル代 | 37,400 | |
| 自己資金 | 7,608 | 飲み物代 | 28,147 | |
| カレー代金 | 4,700 | 会場費 | 10,000 | |
| | | チラシ印刷代 | 3,210 | |
| | | 袋、チケット印刷代等 | 21,252 | |
| | | カレー調理代 | 30,283 | |
| | | 使い捨て食器等 | 18,171 | |
| | | 食材料費 | 13,845 | |
| | | | | |
| | | | | |
| 計 | 162,308 | 計 | 162,308 | |

10 支 部 名：ハミガキ広場

- ① 実 施 日：令和5年11月3日
- ② 実 施 場 所：ハミガキ広場 多目的室・食堂・キッチン
- ③ 対 象 者：利用者 11名 保護者 4名 グループホーム関係者 1名
協力企業 2名 スタッフ 4名 計 22名

④ 実施概要・目的

「ハミガキ広場ファミリーデー・親睦会及び新事業所社屋お披露目会の開催」

令和5年6月26日社屋移転に伴い、新事業所の設備の紹介及びハミガキ広場利用者調理実習成果発表（調理）により親睦会を実施。親睦会では、作業内容の紹介及びゲームにて懇談。

利用者目的：新社屋移転後より実施している月一度の調理実習成果発表とコミュニケーション力の構築

ご家族目的：新社屋移転に伴うハミガキ広場立地状況及び設備の理解とスタッフ関係者との親睦

協力企業目的：請負作業実施メンバーとの親睦

スタッフ目的：関係各位との親睦及び家族との情報の共有

⑤ 具体的内容

令和4年6月26日新社屋完成に伴い、事業所移転を行ったことによりご家族（保護者）に対し事業所の立地、設備等の再確認を目的として事業所見学を行った。利用者の方々に関しては、調理実習の成果を発揮いただくためにも、参加者（ご家族・協力企業）各位に対し調理品を親睦会でのおもてなしとし、コミュニケーション力・協調性等の対応力の向上を図った。協力企業に対して、食事を通して常に作業を行っているメンバーと懇談いただき、作業数の増数を図った。スタッフに関しては、事業所内（支援時間内）では伺うことのできない利用者との触れあいや、保護者・関係者との意見交換を通じて親睦を図った。また、昨年同様に日本情報処理検定合格者の表彰式を行った。

⑥ 成 果

利用者の方々の通常とは相違する一面（生活環境）を見ることができ、今後の支援の幅が広がった。保護者・関係各位と親睦が図れ、家庭での状況をより把握することができた。また、協力機関に関しては、この会を通じて新たに2つの請負作業が決まった。

⑦ 今後の展望

利用者の理解を改めて行うことができ、接し方や声掛け等、また作業提案等の幅が拡張できたことにより、ご家族・事業所一体になり支援の方向性を構築することが可能である。

⑧ コロナ感染防止策

合理的配慮調査を兼ね、コロナ感染者後遺症アンケートを実施、結果として当事業所感染者の感染時期に関し直近3か月が約45%の感染率であることが確認できた。感染分類2類から5類に移行されていますが、上記結果より、当日はマスク着用として実施。

また、事業所に関しては12月末まで着用期間として運営を行う方向性を確認しました。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|--------|------------|--------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | 親睦会（仕入れ食材） | 47,640 | |
| 自己資金 | 17,747 | デリバリー等食材 | 29,160 | |
| | | ゲーム景品 | 10,947 | |
| 計 | 87,747 | 計 | 87,747 | |

11 支部名：アトリエSUYO

- ① 実施日：令和5年4月5日
- ② 実施場所：大阪道頓堀川
- ③ 対象者：障がい者 10名 サポートミュージシャン 8名 介助スタッフ 5名
撮影クルー 2名 招待客 5名 計 30名
道頓堀川沿道、演奏観覧者 約 30名
ユーチューブ視聴回数 242回

④ 実施概要・目的

「大阪チャチャチャバンド道頓堀クルーズ演奏の実施」

道頓堀クルーズ船上で演奏し、不特定多数の人に障がい者とサポートミュージシャンとの混成バンドの演奏を聴いてもらい、配信する。

目的

- ① 音楽活動をしている障がい者たちがバンドとして活躍し、すばらしい楽曲を演奏している事をより多くの大阪市民・国内・外国人観光客などに知ってもらう。
- ② 障がいのある人たちがクルーズ船の上で、春風の中、仲間たちと歌い、演奏する喜びを体感すること。
- ③ 障がい者ミュージシャンとサポートミュージシャン達の共に歌い、共に暮らす姿とその豊かさを多くの人に感じてもらうこと。
- ④ 40～50代の障がい者が現役で活動している姿を次世代の障がい児や親御さんに見てもらうことで展望や参考になること。

⑤ 具体的内容

大阪道頓堀川のクルーズ船を借り、「大阪チャチャチャバンド」のライブ開催。道頓堀川沿いの天満橋から道頓堀川・大阪ドーム・大正・大阪城・北浜ビジネス街など大阪市内を行き交う人たちに向け3時間演奏。

チャランゴ（弦楽器）・ウクレレ・リコーダー・太鼓・ギター・ベース・タンバリン・南米楽器・手話ダンス

⑥ 成果

多くの人達に音楽を通じて社会的障壁を超えて共に生きるあり方を伝えることができた。

⑦ 今後の展望

不特定多数の人に対し、共生を伝えることができ、毎年春の演奏として定期開催することになった。

⑧ コロナ感染防止策

密を避けるため動画作成を行い、YouTube配信を行った。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|---------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | クルーズ船代金 | 85,000 | |
| 自己資金 | 37,668 | 昼食代 | 18,900 | |
| | | 駐車場代 | 1,800 | |
| | | 雑費 | 1,968 | |
| 計 | 107,668 | 計 | 107,668 | |

12 支 部 名：のんのん

- ① 実 施 日：令和5年11月8日
- ② 実 施 場 所：大阪狭山市立総合体育館
- ③ 対 象 者：利用者 14名 職員 5名
- ④ 実施概要・目的

「スポーツ大会の実施（ボッチャセットの購入）」

コロナ禍や猛暑の影響で、外で身体を動かす機会が減少している。室内でみんなで身体を動かして楽しめる活動として、ボッチャ（パラリンピック正式種目）を取り入れたスポーツ大会の実施。

⑤ 具体的内容

「スポーツ大会」を開催、メイン競技としてボッチャを行った。

⑥ 成 果

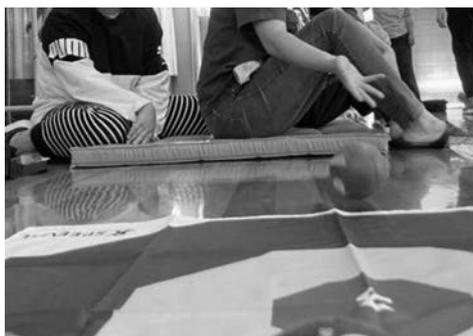
手作りのボールなどで日頃よりボッチャを取り入れていたことから、皆ルールもよく理解しており、今回新しい本物のボッチャセットを使用して競技できたことをとても喜ばれていました。手ごたえもいつもよりあったようで、集中力もすばらしかった。

⑦ 今後の展望

今後の取り組みの一つに取り入れることで、地域の大会に出てみるなど、地域の方々と交流するきっかけとなればと考える。また、日頃から少しずつ体を動かす機会になるように活用していきたい。

⑧ コロナ感染防止策

狭い空間でもできる競技ではあるが、感染防止も考慮して広い体育館を当事業所のみで貸切で利用させていただいた。向かい合わせ等にならないよう、広がって座り観戦するようにした。



⑨ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 |
|------|--------|------------|--------|
| 助成金 | 44,640 | ボッチャボールセット | 49,400 |
| 自己資金 | 4,760 | | |
| | | | |
| 計 | 49,400 | 計 | 49,400 |

13 支 部 名：ナポレオンフィッシュ

- ① 実 施 日：令和5年10月21日、11月20日
- ② 実 施 場 所：ナポレオンフィッシュ
- ③ 対 象 者：利用者 20名 職員 7名 計 27名
- ④ 実施概要・目的

「災害時における非常用照明の設置」

- ⑤ 具体的内容

事業所の洗面所・トイレ個室等の照明を停電時でも利用できるようにポータブル電源を購入し、照明はポータブル電源から供給できるように回線工事を行った。

- ⑥ 成 果

事業所内の洗面所・トイレは窓が少なく、サービス提供中である日中の時間でも照明が点いていないと暗く、万が一停電になってしまった場合はトイレが使用できないような状況であった。今回設置したポータブル電源などにより、停電時でも連続3時間照明を点け続けることができ、トイレや洗面所を使用するだけであれば数日利用することができるようになった。また、ポータブル電源は持ち出すことも可能なため、災害時に電源が必要な場所で使用したり、車のシガーソケットからも充電可能であるため、大規模な停電であっても、様々な用途に使用することが可能となった。

- ⑦ 今後の展望

停電だけではなく地震や水害などさらなる対策が必要な個所も多く、特に地震における家具等の転倒に関しては早急に対策を行いたいと考える。



- ⑧ 収 支 報 告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|---------|---------|-----|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 | |
| 助成金 | 70,000 | ポータブル電源 | 55,000 | |
| 自己資金 | 49,900 | 照明回路工事 | 46,000 | |
| | | 諸経費 | 8,000 | |
| | | 消費税 | 10,900 | |
| 計 | 119,900 | 計 | 119,900 | |

1 4 支 部 名：摂津市立みきの路

- ① 実 施 日：令和5年11月23日
- ② 実 施 場 所：摂津市立味舌体育館
- ③ 対 象 者：法人利用者（知的障がい者・身体障がい者）84名 家族 33名
法人職員 97名 ボランティア 45名 来賓 19名 計 278名

④ 実施概要・目的

「スポーツフェスタ2023 ～Enjoy sports～の開催」

関係団体やボランティアとの協働のもと、摂津宥和会の各施設が一堂に会し、スポーツを通じて利用者の健康維持・増進と利用者・職員・ボランティアとの交流を図ることを目的に実施した。

⑤ 具体的内容

例年の恒例行事であった法人運動会は雨天やコロナ禍で7年間実施できませんでした。7年ぶりの法人全体行事として、今までの運動会から趣向を変えて、「スポーツフェスタ2023」と題して、心機一転の行事として実施しました。会場は今までは近隣小学校の校庭で行っていましたが、今回から天候に左右されにくい体育館で開催しました。完全バリアフリーで障がい特性に応じて個別対応可能なスペースもあり、利用者にも快適に参加いただけたと思います。

当法人の利用者は障がい程度も幅広いことから、スポーツの楽しさを味わい、スポーツを通じた健康の維持・増進、利用者・職員・ボランティアの交流を深める大切な機会となるよう工夫を凝らし、競技種目も大阪府障がい者スポーツ大会採用種目のフライングディスクやパラリンピック正式種目のボッチャ、障がいの程度に関わらず楽しめる大玉送り、職員の仮装競争などを企画し、利用者・職員・ボランティアが一体となり楽しめるイベントとなりました。近隣の中学校や大学からボランティアが参加し、障がいに対する理解を深めてもらい、障がい者の社会参加推進の機会となることを目的としました。

⑥ 成 果

障がいの有無、立場を超えて参加者全員がそれぞれに楽しんでいただけたと思います。法人職員が一つの目的に向かい一致団結して取り組めたイベントとなり、今後も摂津宥和会が地域に貢献し続ける法人であるための一体感を持つことができました。

ボランティアへのアンケートでは、「障がい者との交流が楽しめた」「自然と笑顔になれるイベントだった」など前向きな意見が多く、「次回も参加したい」「後輩にも勧めたい」などの意見もあり、次年度へのつながりも期待できます。

⑦ 今後の展望

体育館を使用してのスポーツイベントを法人として初めて実施しました。今回の良かった点と改善点を精査し、ブラッシュアップすることで、より質の高いイベントにしていきたいと思います。当法人の利用者・職員はじめボランティアや来賓が一体となり、ノーマライゼーションを体現できるようなイベントにしていきたいと思います。

⑧ コロナ感染防止策

【スポーツフェスタ2023新型コロナウイルス感染症対策について】を作成し、参加者全員に事前に配布し、感染予防対策の周知を図りました。当日も体育館設置の手指消毒液に加え、法人からも持参し各所に設置しました。マスクの予備も準備し、配布を行いました。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|-------------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 200,000 | フライングディスク | 24,594 | |
| 自己資金 | 191,541 | フープセット | 49,500 | |
| | | ボッチャ用スロープ | 39,600 | |
| | | ジャンボゲームボール | 50,114 | |
| | | 空気入れ | 8,945 | |
| | | コスプレ4体 | 21,080 | |
| | | 電子ホイッスル4 | 8,820 | |
| | | ラインテープ | 7,770 | |
| | | プログラム用紙 | 1,749 | |
| | | トランシーバーイヤホン | 9,212 | |
| | | アルカリ乾電池 | 1,241 | |
| | | レジ袋 | 403 | |
| | | スポーツドリンク | 20,373 | |
| | | お茶 | 4,377 | |
| | | 名札用シール | 2,836 | |
| | | 弁当(ボランティア) | 27,140 | |
| | | 横断幕 | 27,500 | |
| | | 参加賞 | 78,870 | |
| | | 体育館借用料金 | 7,416 | |
| | | | | |
| 計 | 391,541 | 計 | 391,541 | |

15 支 部 名：みきた作業所

- ① 実 施 日：令和5年10月23日
- ② 実 施 場 所：みきた作業所 2階 多目的室
- ③ 対 象 者：利用者 19名
- ④ 実施概要・目的

「皆がひと息つけるスペースの設置」

利用者も重度化し、集団での活動を苦手とする方が多くなり、自分の過ごしやすい場所を求める傾向が強くなってきた。作業所の活動スペースは最小限のスペースしかなく個々の要求を満たす空間の確保は難しい現状がある。そのため活動空間の一部に「ホットひと息できる場所」を設ける。

⑤ 具体的内容

畳ベットの設置し、小上がりスペースを設け、ソファなどと組み合わせ身体を休められるスペースを確保した。

⑥ 成 果

昼休憩時に行き場を失っている方も自然と足を運ぶ場所となった。

⑦ 今後の展望

他者と集団活動に取り組むのが苦手な方に、同じスペースでありながら自分の落ち着ける場所があることで、一緒に過ごす事が可能となるように活用していきたい。



⑧ 収 支 報 告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|--------|-------|--------|-----|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 | |
| 助成金 | 70,000 | 畳小上がり | 86,240 | |
| 自己資金 | 16,240 | | | |
| | | | | |
| 計 | 86,240 | 計 | 86,240 | |

16 支 部 名：オールケア旭

- ① 実 施 日：令和5年11月14日
- ② 実 施 場 所：オールケア旭
- ③ 対 象 者：利用者 10名 職員 15名 計 25名
- ④ 実施概要・目的

「災害時における電源確保のためのポータブル電源の購入と避難訓練」

⑤ 具体的内容

大規模震災が日中の活動中に起こった場合を想定し避難訓練を実施した。利用者の家族と連絡がとれ帰宅できるまでは事業所で過ごすことになるので利用者と従業員が必要な電力の備蓄が必要である。

車両を発電機として、安定した電気を供給できるよう蓄電池の備えをすることとした。使用するものとして、通信・照明・および重度障がい者の生活介護・放課後デイサービスであるため、医療的ケア装置カフアシスト（排痰補助装置）・クーリングのための保冷剤を入れる冷蔵庫や利用者持参の人工呼吸器・加温加湿器・吸引器・ネブライザー吸入器・酸素呼吸器・酸素濃度測定器（SP02モニター）等電源が切れてはならないため、現在の1台から増やしておく必要がある。

⑥ 成 果

ポータブル電源は重量はあるが1人で持ち運び可能であり、接続ケーブル等は分かりやすく誰でも容易に接続が可能であった。また、付属のソーラーパネルでも日差しが弱くても充電可能であった。利用者の協力のもと人工呼吸器・電動車いすへの接続確認を行い安定した電気の供給も確認できた。車両を発電機として使った場合も安定して電気を供給することができた。今回、ポータブル電源の購入費用を助成していただいたことで停電に備えることができた。

⑦ 今後の展望

屋外での活動等にも使用して非常時に対応できるよう、職員への周知・研修を持ち利用者の生活が安全に楽しく豊かになるように考えて活用していきたい。今後、台数の増数も検討していきたい。



⑧ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|---------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | ポータブル電源 | 109,980 | |
| 自己資金 | 39,980 | | | |
| | | | | |
| 計 | 109,980 | 計 | 109,980 | |

17 支部名：今林の里

① 実施日：令和5年11月5日

② 実施場所：今林の里 館内

③ 対象者：入所・生活介護・共同生活援助利用者 58名
 入所・生活介護・共同生活援助利用者家族 19名
 ボランティア 15名
 職員 33名 計 125名

④ 実施概要・目的

「今林の里 ミニさとまつりの開催」

コロナ前まで地域の方との交流、利用者と家族の交流などを目的として実施していた「さとまつり」を楽しみにしておられる利用者もおられることから、コロナ前の規模での実施はまだできませんが、利用者・家族・職員が楽しみながら交流できるイベントとして企画、実施しました。

⑤ 具体的内容

- ・駐車場にてキッチンカーを3台（ラーメン・スイーツ2種類）出展しました。
- ・1階内を飲食スペースとして使用しました。
- ・2階では職員が考えた手作りゲーム屋台を設置。計5つのゲームを用意しました。
ゲームでは景品としてお菓子を用意。
- ・家族などが来られない利用者のために、ボランティアにご協力をいただいた。

⑥ 成果

- ・キッチンカーも珍しいため、利用者も楽しみながら選んで飲食していた。
- ・1階と2階で会場を飲食とゲームコーナーとに分けたことで、混雑を避けることができたため、密にならなかった。
- ・ゲームコーナーでは景品があったため、利用者も一生懸命取り組む姿が見られ、楽しむ様子が見られた。
- ・ボランティアにご協力いただいたことで、利用者も久しぶりに外部の方との関りを持つことができた。
- ・コロナ禍で利用者と家族も一緒に活動する機会が減っていたため、こちらも久しぶりのイベントで楽しく過ごしていただくことができた。

⑦ 今後の展望

・地域の方にも参加していただけるイベントとして、企画していきたいと考えています。ただし、コロナ感染症対策を行ったうえでの企画として考えていく。

⑧ コロナ感染防止策

- ・会場内はすべて窓を開放とした。
- ・来場者にはマスク着用をお願いした。
- ・入口に消毒液を設置。
- ・食事スペースは1人1人の間隔を1m以上開けて席を設置した。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|-------------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 150,000 | キッチンカー | 300,300 | |
| 自己資金 | 269,036 | 手作りゲームコーナー等 | 118,736 | |
| | | | | |
| 計 | 419,036 | 計 | 419,036 | |

18 支部名：桜の園

① 実施日：令和5年9月25～26日、9月28～29日、10月2～3日

② 実施場所：三重県 鳥羽水族館 志摩スペイン村

③ 対象者：利用者 40名 支援員 24名 計 64名

④ 実施概要・目的

「利用者一泊旅行の実施」

障がい当事者の、日々の仕事の慰労、今後の仕事の活力となるように。

⑤ 具体的内容

今年度は桜の園で、伊勢・志摩への宿泊旅行を実施しました。コロナ禍の影響で、宿泊の行事は4年ぶりとなりました。バスで片道3時間以上。支援員側の方が宿泊の経験がないものが多く、身体障がいの方など介助が必要な利用者が多かったこともあり、生活介護メンバーは2班に分かれての実施となった。それでも支援員側は不安が多くありましたが、1日目は鳥羽水族館、2日目は志摩スペイン村と、経験豊富な利用者さんはとても楽しんでいただけた姿が印象的でした。

就労メンバーは、移動は電車（公共交通機関）を使っでの旅行を企画し、実施しました。

⑥ 成 果

水族館とスペイン村での行動は、チーム単位として、行きたい場所や食事の場所など、チーム（少人数）で事前に利用者と何度も話し合い、旅行へのイメージも作っていききました。基本をチームでの活動としたことで、利用者も自分の意見が言いやすく、支援員も周りが見えやすく、移動もスムーズで余裕を持って行動できたので、予定通り行きたい場所を回れ、利用者も旅行を満喫することができました。

後日の利用者との旅行の振り返りでは、「～さんは～してたで！」と、自分と一緒に行動していた利用者同士での話を楽しそうに話す姿があり、チーム活動とした意義を感じることができました。

⑦ 今後の展望

これからも日々の仕事の他に、地域との交流行事の予定があり、多忙な日々が続きますが、経験豊富な利用者の胸をかしていただき意見をもらいながら、当事者主体の活動を進めていきたいと思えます。

⑧ コロナ感染防止策

利用者通所前の検温、支援員の出勤前の検温、マスク着用の実施。旅行中の利用者の体調管理を意識するよう努めました。



⑨ 収 支 報 告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|-----------|------------|-----------|-----|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 | |
| 助成金 | 150,000 | 生活介護前半旅行代金 | 1,028,700 | |
| 自己資金 | 2,161,350 | 生活介護後半旅行代金 | 1,094,800 | |
| | | 就労継続B型旅行代金 | 187,850 | |
| | | | | |
| 計 | 2,311,350 | 計 | 2,311,350 | |

19 支部名：いわき生野学園

- ① 実施日：令和5年8月5日
- ② 実施場所：いわき生野学園 北側広場
- ③ 対象者：利用者、家族、地域住民、職員 計 約300名
- ④ 実施概要・目的

「いわき生野学園 夏祭り2023の開催」

夏祭りを通じて、地域の方および利用者や家族との交流を深めること。

⑤ 具体的内容

- ・ 飲食模擬店の出展
唐揚げ・ポテトフライ・コロケ・焼き餃子・フランクフルト・かき氷・焼きそば
お好み焼き・卵せんべい・飲料
- ・ ゲームコーナー
輪投げ・お菓子釣り・スーパーボールすくい・的あて
- ・ 舞台イベント いわき生野学園 ダンスクラブによるダンス発表 抽選会 花火

⑥ 成果

コロナ禍では利用者のみ参加のミニ夏祭りを行っていましたが、コロナ禍も落ち着き、地域の方やご家族を招いての夏祭りは3年ぶりの開催となりました。夏祭りスタートの18時に合わせ、当日は炎天下の中、提灯等の設営やゲームコーナー、模擬店の準備を行いました。

久しぶりの開催のため、普段来園されないご家族や地域の方から「懐かしい」「楽しかった」等の多くの声を聴かせていただきました。舞台イベントでは利用者のダンス発表を行いました。大勢の前での披露が久しぶりであったため、緊張した表情も伺えましたが、終わった後の拍手に笑顔がこぼれていました。夏祭りで初めて抽選会を行ったことで、地域の方やご家族も最後まで楽しまれている様子が伝わってきました。

最後に、事故や急病なく無事終えることができ、夏祭りの経験が今後のイベントにも活きると感じられる夏祭りでした。

⑦ 今後の展望

コロナ禍では利用者、ご家族が自粛等で制限がかかった“我慢”する生活を送ってこられました。イベントを開催し、外出の機会を創出することで、“楽しい”生活を取り戻してもらえるよう企画していきます。加えて、地域に開けたイベントを企画運営し、コロナ禍前のように地域との交流を深められるよう努めていきます。

⑧ コロナ感染防止策

真夏の野外イベントであったため、マスクの着用を求めず開催しました。結果的に熱中症の訴えもなく、開放的な印象を抱いていただいたと感じられます。

会場にアルコール消毒液を設置し、テーブル・椅子・備品等の消毒を徹底して、コロナをはじめとする感染対策を行いました。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|-------------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 170,000 | ベンチシート (30) | 82,770 | |
| 自己資金 | 93,649 | LED電球 (提灯用) | 43,267 | |
| | | 冷却スプレー等 | 18,203 | |
| | | 噴出花火 | 16,333 | |
| | | 備品等 | 15,840 | |
| | | 景品代 | 87,236 | |
| 計 | 263,649 | 計 | 263,649 | |

20 支部名：はぐはぐ

- ① 実施日：令和6年1月27日
- ② 実施場所：六甲山スノーパーク
- ③ 対象者：放課後デイサービス利用者 小学生 13名 中学生 2名 職員 7名
計 22名

④ 実施概要・目的

「冬の自然を楽しもう (六甲山スノーパーク)」

豊かな冬の自然に触れ、スキーやそり遊びを楽しむ。

⑤ 具体的内容

スキーとそりチームに分かれて活動を行いました。

スキーチームは、全員初めてという事もあり、インストラクターに教えていただいた。最初は板をつけ歩くのも難しそうでしたが、講習の最後にはリフトに乗りプルークで上から滑れる子どもたちもいました。そりチームは、そりに乗って坂の上から滑ったり、雪だるまやかまくらを作ったり雪合戦をしたりと、思い思いに楽しみました。

⑥ 成果

コロナ禍で、学校の行事が中止になりスキー体験ができなかった児童やご家庭の事情でなかなか雪遊びを体験することのできない児童が冬の自然に触れることができました。

⑦ 今後の展望

今後も豊かな自然に触れることのできる活動を提供していき、子供たちの健やかな成長を目指します。

⑧ コロナ感染防止策

通所前にご家庭で検温して体調を確認していただいた。また、通所時も再度健康チェックを行いました。また、マスクの着用、手指消毒の徹底を行う等、感染予防に留意しました。



⑨ 収支報告

〈収入〉 (円) 〈支出〉 (円)

| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 |
|-------------|---------|-------------|---------|
| 助成金 | 70,000 | バス(高速・駐車場代) | 78,810 |
| 自己資金 | 14,626 | 入場料 | 34,750 |
| 参加費 | 57,500 | スキー等レンタル料 | 68,150 |
| 個人負担(レンタル代) | 52,200 | スキー講習費 | 21,000 |
| 個人負担(レッスン代) | 15,750 | リフト券 | 4,000 |
| | | 保険代 | 3,366 |
| 計 | 210,076 | 計 | 210,076 |

2.1 支部名：ういず守口

- ① 実施日：令和5年10月27～28日
- ② 実施場所：神戸しあわせの村
- ③ 対象者：利用者 22名 職員 13名 計 35名
- ④ 実施概要・目的

「利用者一泊旅行の実施」

メンバー同士の慰労・懇親・仲間作り。

⑤ 具体的内容

重度の障がいのある生活介護利用者にとって、仲間と共に過ごす時間は大切であり仕事だけではなく、年1度のメンバー旅行はメンバー同士で話し合いを重ね、自分たちの自信につなげることができたと思う。また共通の思い出ができることで、親密度が増し、より仲間作りを進めていける。

⑥ 成果

利用者の笑顔と思い出を共有することができました。また、職員も宿泊行事の経験を積めた。利用者・職員も旅行の積み重ねの大切さを感じる事ができた。

⑦ 今後の展望

職員・利用者共々経験を積んでいき、より活動範囲を広げた宿泊行事にしていきたい。

⑧ コロナ感染防止策

コロナウイルスが収束してきたとは言え、マスクが着用できる利用者にはできるだけ着用してもらい、適度に手指消毒を行い、実施した。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|-----------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 150,000 | 宿泊費 | 451,500 | |
| 自己資金 | 444,436 | 昼食代(2日間分) | 52,976 | |
| | | バス代 | 66,880 | |
| | | 高速代 | 23,080 | |
| | | | | |
| 計 | 594,436 | 計 | 594,436 | |

2.2 支部名：わくわく富田林

① 実施日：令和6年1月8日

② 実施場所：社会福祉法人 佳松会 運動場

③ 対象者：利用者 40名 職員 25名（見学者も含む） 計 65名

④ 実施概要・目的

「合同ソフトボール練習（ユニホーム等の作製）」

利用者同士の仲間意識・参加意欲の向上及び充実した健康増進と共生社会を目指し、法人のスポーツユニホームとして、また練習で使用するスポーツウェアとしてオリジナルTシャツ、キャップを助成金にて作製し、合同ソフトボール練習を行った。

⑤ 具体的内容

- ・ 来年度の大阪知的障害者福祉協会主催 フレンドシップソフトボール大会に向けての練習。
- ・ 社会福祉法人佳松会との施設間交流。

法人オリジナルTシャツとキャップを着用し、フレンドシップソフトボール参加経験のある社会福祉法人佳松会と合同練習をしました。

他法人の利用者と準備運動、キャッチボール、守備練習、打撃練習を実施し、大会に向けて、お互いに法人交流を深めながら、練習することができました。

⑥ 成果

大会経験のある法人と練習をしたことで、利用者から「今度、いつするん?」「また、やろうな」など意欲の向上が伺えました。また、近隣の法人の利用者、職員との交流を図ることができました。

⑦ 今後の展望

- ・ 令和6年度のフレンドシップソフトボール大会に参加。
- ・ 地域のスポーツ大会、法人のイベントなど、地域交流の場において着用。

⑧ コロナ感染防止策

応援の参加者は、椅子の間隔を空けて、密にならないように配慮し、練習終了後はうがいと手洗いの励行、および手指のアルコール消毒を行った。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|--------------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 200,000 | Tシャツ (100) | 52,525 | |
| 自己資金 | 80,225 | プリント代 | 154,000 | |
| | | 帽子 (100) | 46,200 | |
| | | プリント代等 | 22,000 | |
| | | Tシャツ・帽子トレース代 | 5,500 | |
| | | | | |
| 計 | 280,225 | 計 | 280,225 | |

23 支 部 名 : ととろ

- ① 実 施 日 : 令和5年12月22日
- ② 実 施 場 所 : 自立訓練事業所 ととろ
- ③ 対 象 者 : 利用者 16名 職員 5名 関係機関 6名 計 27名
- ④ 実施概要・目的

「ととろ設立10周年お祝いの会の開催」

- ・10周年のお祝いと「クリスマス会」「忘年会」として、利用者も職員も楽しむ。
- ・イベントの企画を利用者が主体的に行うことで、計画性や成功体験・失敗体験の場となる。
- ・記念品を通して、地域と繋がる、障がい理解啓発をする。

⑤ 具体的内容

- 10:30 飾りつけ、食事の盛り付け、食事会
- 12:30 10周年の動画鑑賞
- 13:00 T-1グランプリ (利用者・職員による一芸大会)
- 14:00 ビンゴ大会、記念品贈呈

⑥ 成 果

イベント当日、利用者がいつもとは違うランチやゲームで楽しめたことはもちろん、事業の目的を踏まえてどんな内容にするのかと利用者が主体的に取り組めるイベントとなりました。ビンゴの景品では、予算の範囲内で利用者一人ひとりが喜んでもらえるプレゼントを自分たちで選びましたが、誰かにプレゼントする経験も少なく、実際は誰かの真似をして選ばれる方が多かったです。しかし、想像して、相談し、周りを見て、決断するという日常生活に欠かせないことが経験できました。また、記念品も利用者が考えデザインしたのですが、記念品を日頃お世話になっている関係機関や仕事を卸している企業にご挨拶として、利用者が訪問し、配らせていただきました。地域関係者の皆さんとの繋がりを再認識できたイベントとなりました。

⑦ 今後の展望

今までイベントは安全面や成功を考えて、職員が企画していましたが、利用者主体で取り組むことで、精力的に取り組み、様々な経験を得られるため、今後も利用者主体の支援・取り組みを企画します。

⑧ コロナ感染防止策

黙食、飲食物を扱う際は消毒とビニール手袋の着用、換気、手指消毒を行った。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|--------|----------|--------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | 食費 | 12,443 | |
| 自己資金 | 14,090 | ビンゴ大会景品代 | 11,905 | |
| | | 記念品代 | 57,102 | |
| | | 食器・装飾費 | 2,640 | |
| | | | | |
| 計 | 84,090 | 計 | 84,090 | |

2.4 支部名：えるで

- ① 実施日：令和6年3月20日
- ② 実施場所：はーとビュー
- ③ 対象者：利用者、関係者、地域団体、及び地域住民 約600名
- ④ 実施概要・目的

「バオバブとみんなのWA2023の開催」

地域の各種団体が結集し、みんなが安心・安全そして元気に生きる姿を発信できる機会にする。地域の方々（特に絆〔子ども〕食堂に参加する子ども達）が楽しく参加し、みんなが交流しあえる機会にする。3月の子ども食堂も同時に開催する。障がいのあるメンバーとのつながりや関係を再確認し、あらためて「障がい」について考える機会にする。

⑤ 具体的内容

- ・松原市危機管理課と松原防災士会による学習会
「災害を乗り越え、安心安全な街作りのため」
- ・えるでや地域団体による自主製品の販売
- ・利用者とボランティアで運営するゲームコーナーや模擬店
- ・地域団体の方による販売や出店
(地域団体による子ども食堂の同時開催)

| | | | |
|------|---------|---------|---------|
| 自己資金 | 33,700 | バルーンアート | 7,799 |
| | | プロパンガス | 6,160 |
| | | 要員昼食代 | 2,8800 |
| | | 謝礼(4団体) | 30,000 |
| | | | |
| 計 | 324,450 | 計 | 324,450 |

25 支 部 名：四季の森

- ① 実 施 日：令和6年3月21日
- ② 実 施 場 所：四季の森食堂とピロティエ
- ③ 対 象 者：利用者 44名 短期入所 3名 職員 42名 実習生 1名 計 90名
- ④ 実施概要・目的

「食事会の実施」

食べたいものを選択して食す。またいつもと異なる食事体系で提供することで施設内での気分転換につなげる。

- ⑤ 具体的内容

昼食時に回転寿司を提供。回っている好みの寿司をとって食事する。

15種のネタから選択した。

おやつにはキッチンカーに来てもらい、数あるメニューよりクレープを注文して食べた。

- ⑥ 成 果

特に回転寿司が施設に来たことに、皆さん喜ばれていた。回っている寿司をそれぞれの方が選んで食べていました。中には寿司職人さんに直接注文される方もおり良い機会をいただきました。

クレープも数ある種類から選んで食べれたこともあり、大変満足な様子でした。

- ⑦ 今後の展望

施設内であってもいろいろな行事の取入れが可能であると感じました。外出が苦手な利用者さんにとっては、特に幅広い変化ある行事提供は必要であるので企画を通していただき助成をいただき、ありがとうございました。

- ⑧ コロナ感染防止策

食事前に手洗いと消毒の実施や業者にもマスクの着用の協力をいただいた。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|--------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 200,000 | 出張回転寿司 | 220,360 | |
| 自己資金 | 78,110 | 振込手数料 | 550 | |
| | | キッチンカー | 57,200 | |
| | | | | |
| 計 | 278,110 | 計 | 278,110 | |

26 支部名：芥川事業所

- ① 実施日：令和5年12月～令和6年3月
- ② 実施場所：カップヌードルミュージアム 淡路ファームパーク イングランドの丘
なんばグランド花月
- ③ 対象者：

| | | | | |
|--------------------|-----|-----|----|----|
| カップヌードルミュージアム | 利用者 | 2名 | 職員 | 2名 |
| 淡路ファームパーク イングランドの丘 | 利用者 | 13名 | 職員 | 4名 |
| なんばグランド花月 | 利用者 | 6名 | 職員 | 3名 |
- ④ 実施概要・目的

「障がいのある人たちの意思決定と社会参加促進のための余暇支援の実施」

障がいのある人たちにとって充実した余暇を過ごすことは、生活の質（QOL）を向上するのに欠かせない要素の一つであると考えます。数年前より様々な支援機関において余暇について報告されている内容を見ると「ひとりで自宅やグループホームでTVやYouTubeなどを観て過ごす」「家族やガイドヘルパーと個別で外出する」が大半を占め、当事業所の利用者や家族にお聞きしても、ほぼ全員から同じような返答がありました。今回の余暇支援において集団で公共交通機関や公共の場を利用する経験をしていただくことを目的に実施しました。

⑤ 具体的内容

事前の取組について

当法人の設立20周年記念レクレーションとして事前に各事業所にポスターを掲示しました。職員はアンケートをもとに利用者に3つの企画ごとの資料や動画を見せながら、ど

れに参加したいか、また、何をしたいのかを少人数のグループごとに聞き取りをさせていただいたうえで、公共交通機関と公共施設を利用することでの社会マナーの習得と社会参加の促進、お土産を買うことによる買い物体験と金銭管理の経験をしていただきます。またボランティアに障がい理解を深めていただくことも目的としていましたが、日程が合わない、体調不良などの理由で不参加となりました。そのため安全面を確保しながら、日常の支援においてあまり関わりのない職員も交えて外出する経験をさせていただくようにしました。

●令和5年12月18日（カップヌードルミュージアム 大阪池田について）

電車の切符の購入などにおいては、可能な限り職員は見守り役として利用者に購入していただくようにしました。会場では来場者が多く、チキンラーメンづくりやカップヌードルづくり体験を行うにも長時間待機したり、長い列に並ばなければいけませんでしたが、社会マナーを守って、手作り体験を楽しんでおられました。また家族へのお土産の購入に関しても自分で選ばれ、レジでの支払いについても職員からの声掛けだけで行っておられたことが印象的でした。

●令和6年3月4日（淡路ファームパーク イングランドの丘について）

体調不良のため利用者3名、職員1名のキャンセルがありました。貸切バスでの移動ということで集合時間やトイレ休憩は余裕をもって設定しましたが、利用者のみなさんは特に混乱もなくスムーズに移動ができていました。

また、バス車内では配布したしおりを参照しながら1日のスケジュールやグループ分けの説明を行いました。当日は、天気も良く、淡路サービスエリアでは希望者で明石海峡大橋の写真を撮りに行ったり、イングランドの丘では昼食を食べた後にグループ単位で散策を行いました。散策時には羊やロバなどの動物を見たり、コアラ館ではコアラの赤ちゃんの愛称応募用紙に思い思いの愛称を記入して応募されていました。

帰りの車中では普段関りのあまりない利用者同士や職員と共に、表情良く話をされている姿が見られました。

●令和6年3月6日（なんばグランド花月について）

普段は身だしなみに課題のある利用者も、身だしなみを整えて参加していただきました。集団での公共交通機関を使用した移動もスムーズに行い、劇場内においてもルールを守り、観客参加（全員でウエーブする）の場面においても他の観客と共に楽しんでいる様子でした。自宅のテレビなどでしか見たことのない芸人を間近で見る機会であり、とても楽しんでおられました。

⑥ 成 果

ボランティアの不参加については時期や早めにご依頼する等当方の配慮不足であったことが原因と考えています。しかし日常の支援において、あまり関わりのない職員を交

えて外出することにより、当初はお互いに緊張しているようだったが、徐々に緊張が和らいで交流することができたことが想定外の成果であったと思います。

また、昼食時においても外食する機会の少ない利用者や他者にメニューを決めてもらっていた利用者も、自分の食べたいものをメニューから選んで食べるという喜びを知っていただきました。

移動時においても切符を購入する、列に並ぶ、集団で予定通りに行動することを経験していただき、現地に着いたら自分なりに楽しみを見つけてルールに沿って行動する体験をしていただいたことが良かったと感じます。

利用者自身が職員から情報を得て自分が希望した企画に参加する、自分で昼食を選ぶ、自分なりの楽しみ方を見つける等の経験が利用者の自己選択や社会参加の促進に少しでも役立ったのではないかと考えます。

⑦ 今後の展望

1年に1度程度は、今回のような公共交通機関や公共施設を利用した外出を伴った余暇支援を行い、ボランティアの障がい理解を促進しながら、利用者には公共ルールを学んでいただき、家族や日常的に接している職員以外の人達との交流を通じて社会参加の喜びを知っていただくと共に、自分の気持ちを他者に伝えたり、自己選択ができたりするようにしていきたいと考えます。また、大がかりではなく季節ごとに四季を感じるような身近な場所への外出も併せて実施していきたいと思います。

⑧ コロナ感染防止策

感染症法で「5類」に位置付けられましたが、新型コロナウイルスの感染者が増加する中、以下の予防策を実施しました。

1. 発熱等の症状がある者の参加の自粛の呼びかけと朝の健康チェック
2. マスクの着用と手洗いの徹底
3. 車内などでは密にならないように座席位置の配慮と換気の実施
4. 飲食時に密にならないよう座席位置の配慮



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|-----------|---------|------------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | 交通費(2方面合計) | 10,060 | |
| 自己資金 | 175,464 | 体験料 | 6,000 | |
| 利用者昼食自己負担 | 12,000 | 昼食代(3方面合計) | 65,854 | |
| 職員昼食自己負担 | 10,000 | 観光バス代 | 115,500 | |
| | | 往復通行料 | 13,360 | |
| | | 入場料(2方面合計) | 51,990 | |
| | | 旅行傷害保険 | 4,700 | |
| 計 | 267,464 | 計 | 267,464 | |

27 支部名：はびきの園

- ① 実施日：令和6年3月20日
- ② 実施場所：羽曳野市翠鳥園遺跡公園
- ③ 対象者：利用者、職員、家族、地域住民、関係機関 計 138名
- ④ 実施概要・目的

「地域交流の祭りの開催」

『支部と地域交流のお祭り』という企画で多くの方に、はびきの園の取組を紹介することができました。

⑤ 具体的内容

実施場所変更。感染症対策と、駒ヶ谷ではあまりに地域が限定されてしまい、羽曳野市でも中心地である地域で少し広く働きかけができるよう工夫しました。羽曳野市では駒ヶ谷地域でのネットワーク会議(校区福祉委員会)などで開催を紹介し、SNS等でも呼びかけを行いました。

企画は、はびきの園の日々の取組や障がいのある方の人権啓発等のパネルを製作し展示を行いました。屋外での取り組みでしたが、利用者も参加し、訪れた方にパネルを使って日々の取組を職員や利用者が中心になりながら紹介し、交流することができました。また、コロナ禍と高齢化でご家族も施設に訪れる事から遠ざかっていましたが、当日は何名か来て下さり普段の園での様子を、写真入りパネルを見ながら感じてもらうことができました。また、イベントを楽しくするためにキッチンカーに2台参加してもらい、訪問者にクレープなどを振舞ってもらいました。

⑥ 成果

訪問者の中で「障がいのある方の実態を知ることができて良かった」「普段こんなことをしているんですね」などの感想をいただいたり、SNSのフォロワーが若干(20名)増えました。また、羽曳野市の職員も来られ、施設の実態を見ていただきました。

⑦ 今後の展望

今回は開催の周知がしっかりとできなかった事と準備に関わった職員が少なかったですが、予想以上の参加者がありました。もっと計画的に行う事で、さらに理解者を増やしていく事ができるのではないかと考えます。

⑧ コロナ感染防止策

感染対策として、屋外で開催し、消毒液を準備。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|--------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 123,940 | キッチンカー | 121,200 | |
| 自己資金 | 0 | 駐車場代 | 1,200 | |
| | | 備品購入費 | 1,540 | |
| 計 | 123,940 | 計 | 123,940 | |

28 支部名：熊取療育園・つばさ

- ① 実施日：令和6年2月8日
- ② 実施場所：エブノ泉の森ホール
- ③ 対象者：利用者、職員 計 81名
- ④ 実施概要・目的

「合同外食の実施」

当法人の障害福祉サービス事業所「つばさ」には熊取療育園から移行された利用者が多数在籍しているが、相互の利用者同士の交流が絶えているため食事を楽しみながら、利用者、職員の交流を図ると共に、社会でのルールやマナーを守り、今後の余暇外出などに繋げる。

⑤ 具体的内容

以前はイベントなどの全体的な催し物があったものの、コロナ感染予防のため、なかなかそういった機会が数年持てずにいたが、当日は会場を借り、一緒に食事や演奏会、ティータイムを楽しむことができた。(利用者の1人は嚥下機能低下のため、やわらかい介護食対応を行った。)

⑥ 成 果

- ・利用者同士の交流を楽しめた。
- ・いつもと違う雰囲気ですぐに昼食、デザートを楽しまれた。
- ・ハンドパン（スイス発祥の新しい打楽器）の演奏も盛り上がり楽しめていた。（視覚的情報が充実していた。）
- ・コロナ禍で全体外出ができていなかったが、久しぶりにできた。

⑦ 今後の展望

食事の配膳を待っている時間があったので、音楽を流す、司会が話をつなぐなど会場の雰囲気の工夫をすれば、もう少し盛り上がった。今後は、イベントなども積極的に開催し、利用者の楽しめる機会を増やしていきたい。

⑧ コロナ感染防止策

手洗いを徹底し、ウェットティッシュにてこまめにふき取り、移動時はマスクを着用



⑨ 収 支 報 告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|------------|---------|-----|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 | |
| 助成金 | 243,991 | 会場費 | 21,000 | |
| 自己資金 | 0 | 食事代 | 211,009 | |
| | | 駐車場代 | 1,500 | |
| | | テーブル飾りつけ | 7,425 | |
| | | アルコール除菌シート | 3,057 | |
| 計 | 243,991 | 計 | 243,991 | |

29 支 部 名：あいらぶ工房

- ① 実 施 日：令和6年1月26日
- ② 実 施 場 所：あいらぶ工房
- ③ 対 象 者：利用者、職員 計 50名
- ④ 実施概要・目的

「災害時電源確保のためのポータブル電源の購入」

施設開所中の災害発生に備えてのポータブル電源の整備

⑤ 具体的内容

パソコンや施設スマートフォン等の機器を稼働させて、災害の情報取得及び家族との連絡や救助発信に使用。また、重度障がいのある利用者があるため、温度調整等の環境整備、薬の管理等が必要となる。扇風機やサーキュレーター、冷蔵庫等も稼働させた

⑥ 成果

ポータブル電源を湯沸かしポット数台に接続して湯を沸かし、非常食を作って食べて災害時の備えについて学習した。前日に充電を試したが数時間でフル充電ができ、パソコンやスマートフォンを複数台接続しても減りが少ないことから、避難時の電力は確保できそうである。

あいらぶ工房は通所施設であるが、聴覚障がい者の支援特性に配慮した事業所が大阪府下にまだまだ少ないことから、遠方から通所している利用者が多い。そのため、災害発生時すぐに自宅に帰ることは困難であり、施設でそのまま避難することが予想される。利用者の健康・体調管理及び情報取得を行うため、電源確保が最重要課題と考えていた。

このたび助成を受けてポータブル電源を整備できたことで、湯を沸かししたり、冷蔵庫、サーキュレーターを稼働することが可能となった。また、実際に稼働するところを目前にして、職員や利用者の災害対策への意識が高まった。

⑦ 今後の展望

避難が長期化した場合に備えて、追加の充電電池やソーラーパネル購入の検討、非常食や飲料水を切らさないこと。また棚やロッカーが倒れてこないように耐震の備えも十分に行いたい。

⑧ コロナ感染防止策

非常食体験は密にならないように、利用者を班ごと2グループに分けて時間差で行った。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|---------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 150,000 | ポータブル電源 | 285,000 | |
| 自己資金 | 135,190 | 決済手数料 | 190 | |
| 計 | 285,190 | 計 | 285,190 | |

30 支 部 名：グーテン

- ① 実 施 日：令和5年11月～令和6年3月
- ② 実 施 場 所：グーテン事業所内
- ③ 対 象 者：職員 30名
- ④ 実施概要・目的

「コンサルテーション事業の実施」

強度行動障がいの支援専門家によるコンサルテーション（4回）を実施。強度行動障がいの状態を示す利用者への専門的な支援手法（特性に応じた支援）を学び、事業所内の支援力の底上げ及び連携強化を図るため実施する。

⑤ 具体的内容

令和5年11月21日、12月26日、令和6年2月20日、3月19日の計4回のコンサルテーションを受けた。10月の事前打ち合わせにて対象利用者を絞り、その利用者に対する具体的な支援手法についてスーパーバイズいただくこととなった。

初回は対象利用者のアセスメント及び、PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）の有効性や、導入に向けた研修や具体的な支援事例について紹介いただき、対象利用者の担当職員に向けて、絵カードを用いた支援に取り組む際のポイントや進め方について指導、助言をいただいた。

2回目は、初回の助言をもとに1か月取り組んだ内容を講師に評価いただき、改善点等について指導、助言をいただいた。また、絵カードによるコミュニケーションのほか、スケジュールの提示方法やワークシステムを用いた支援手法について具体的に教えていただき、次回コンサルテーション日までに取り組みを開始することとなった。

その他、初回、2回目の2回にわたり、職員全員に向けて強度行動障がいの特性や具体的な支援方法（PECSの紹介含む）についてご講義いただいた。

3回目、絵カードを用いたコミュニケーション支援及び、スケジュールの活用、ワークシステムを用いた作業支援等の取り組みや進捗状況について評価いただいた後、実践報告会を開催し、この間の取り組み、利用者の変化、成果、課題等について職員全体で共有した。また、別途PECSを用いて支援を行っている現場の見学もさせていただいた。

最終回、前半は対象利用者を絞らず、行動障がいのある利用者の支援において、職員各々が講師に相談できる時間を設け、個別に助言を受けた。後半は、この間中心的に取り組んできた職員と講師の個別面談の時間を設け、職員個々の学びの総括及び今後に向けての助言をいただいた。

⑥ 成 果

高齢利用者中心の支援から、若者層の行動障がいのある利用者の支援に移行しつつあるグーテン（生活介護事業）において、障がい特性に合わせたシステムや枠組みの導入は、事業所にとって新たな一步を踏み出す機会となった。

単に絵カードやスケジュールを導入するだけでなく、改めて行動障がいの特性理解からはじまり、「なぜ取り組むのか」「どう取り組むのか」などその目的やプロセスのポ

イントについて、都度スーパーバイズを受けれたことで、職員の支援の視点・観点ずれを修正できたことは大変良かった。とりわけ対象利用者については、コンサルテーションを受ける前は、常に職員が1名そばに付き添いながら、スケジュールの確認から作業支援など主に言葉を用いてやりとりを行っていたが、本人にとってわかりやすい絵カードやスケジュールボード、ワークシステムを整えることで、利用者自身が自らスケジュールをもとに行動したり、作業に取り組むことができるようになった。

このような利用者の変化が、職員の意識の変化や意欲向上にもつながり、職員自身が主体的に考え新たな取り組みをはじめると、好循環も生まれた。

⑦ 今後の展望

1～2ヶ月に1回、かつ計4回のコンサルテーションでは、事業所全体の取り組みにまで広げることは難しかったが、この経験が職員自身の成功体験にもつながったことから、今後も事業所内で取り組みを続けながら、行動障がいのある人が、よりわかりやすく安定できる環境を整えられるよう努めていきたい。



⑧ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|-----------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | 講師費 (4回分) | 160,000 | |
| 自己資金 | 90,000 | | | |
| | | | | |
| 計 | 160,000 | 計 | 160,000 | |

3.1 支部名：やすらぎの苑 中津

- ① 実施日：令和5年10月28日
- ② 実施場所：ユニバーサルスタジオ ジャパン
- ③ 対象者：利用者、職員 計 17名
- ④ 実施概要・目的

「日帰り旅行の実施」

コロナ禍により、施設外での活動や、人との交流が薄れており、コミュニケーションをとれる機会が減少しており、コミュニケーションスキル向上や協調性を学ぶ機会とし

て実施。

⑤ 具体的内容

来場者も多い中、各グループが集団活動におけるマナーやモラルを守り協調性を養ってもらえればと思います。時間を守る。就労の機会としてもパーク内で働く人はどのような仕事をしているのか、などを見てもらいながら各グループで計画したところを回りました。

⑥ 成果

一人ひとりがきちんと時間やスケジュールを守り、メンバーさん同士やスタッフもいつも以上にコミュニケーションを取り、皆さんとても良い笑顔をされていました。

⑦ 今後の展望

今後も活動時間を取り入れていきたいと思います。マナーや協調性も実践してみること、より理解しやすいと思いました。

⑧ コロナ感染防止策

日頃から体調管理に気をつけて、マスク着用。マスクが苦手な方は手洗い・うがいなど自身でも感染予防対策をされていました。



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|---------|------|---------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 70,000 | 入場料 | 141,000 | |
| 自己資金 | 71,500 | 車椅子代 | 500 | |
| | | | | |
| 計 | 141,500 | 計 | 141,500 | |

3.2 支部名：さらの郷

- ① 実施日：令和6年3月2日（共同生活援助見学）、3月15日（研修会）
- ② 実施場所：共同生活援助見学：社会福祉法人 武田塾「グループホーム ひなた」
研修会：社会福祉法人 和泉つくし福祉会「さらの郷」
- ③ 対象者：共同生活援助見学～理事長、管理者、他職員5名 計 7名
研修会～理事長、管理者、看護師、他職員3名 計 6名

④ 実施概要・目的

「人材育成及び専門性向上のための研修会等の実施」

⑤ 具体的内容

●共同生活援助見学

共同生活援助事業の開業を間近に控え、共同生活援助の運営に関する実務的なノウハウを直接学ぶ機会とするため、地域の中で先駆的かつ先進的に運営されているグループホーム事業所を見学しました。

当日は、工夫が施された実用的業務の数々を目の当たりにして参加者たちからは多くの質問が投げかけられるなど、参加者それぞれが目的意識をもって見学することができた大変有意義な機会となりました。

●研修会・意見交換会

「大阪人間科学大学・学生支援センター総括コーディネーター：森田隆様」を講師としてお招きし、対応が難しい重度障がい者（強度行動障がい等）の支援のありように関する内容をテーマとした研修会を開催しました。

当日は、研修資料「構造化の実践報告（成人期）」を通じて強度行動障がいを有する方への構造化支援の取り組み実例などのお話を聞くことができました。

また、講演後の懇談会では、参加者から「対応が難しく課題を抱えている利用者の支援のありよう」に関する質問が多くあるなど、今後の支援の参考となる有意義な研修会となりました。

⑥ 成果

●共同生活援助見学

当法人では、令和6年4月の共同生活援助事業所の開業を予定していますが、共同生活援助事業の運営に関する実務的な経験やノウハウが乏しいという課題を抱えています。実際、「職員配置等の体制」「食材の仕入れ」「預かり金の管理」「薬の管理」「感染症の対応」「緊急時の対応」等々の根本的な業務に関する知識が乏しいという実情があるなかで、今回の見学を通じて「疑問に思っていることや悩んでいること素直に投げかけてヒントを得られたこと」が本当に嬉しく感じました。そして、職員間で「当事者意識が強化されたこと」が何よりの成果であったと実感しています。

●研修会

当法人の特徴として、障がい支援区分5・6の利用者の割合が約8割に及ぶなど、重度の障がいを有する方が多く利用されています。また、強度行動障がいのある利用者の割合が5割に及ぶなど、対応が難しく課題を抱えている利用者が少なからず在籍されているという実情があります。そうした実情があるなかで、今回の研修を通じて「悩んでいることや困っている事を率直に投げかけてヒントを得られたこと」が何よりの成果であったと感じています。当然、すべての課題が解決するには至りませんが、明日からの支援を「新たな気持ちでチャレンジしよう」という想いを職員間で分かち合えたことが大変嬉しく感じました。

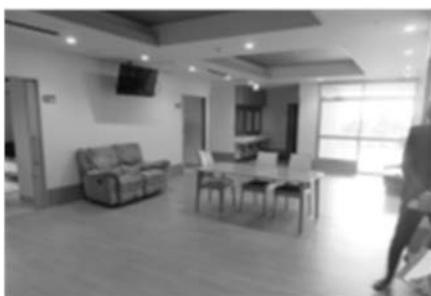
⑦ 今後の展望

今回の研修成果を今後活かしていけるよう、先ずは「利用者支援」及び「共同生活援助事業の運営」にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

また、今後においても「人材育成及び専門性の向上を目的とした研修等の実施」に注力して取り組み、支援力の向上に努めていきます。今後、微力ではありますが、障がいをもつ方たちが「自分らしく」安心・安全に暮らすことの出来る地域づくりに寄与したいと願っております。

⑧ コロナ感染防止策

- ・ 来訪者名簿の記入
- ・ 来場者に入室前における「検温・手指消毒・マスク着用」の徹底
- ・ 会場内の消毒液設置
- ・ 会場内の換気
- ・ 会場内のテーブルの間隔を空けての設置
- ・ 参加者の人数制減



⑨ 収支報告

| 〈収入〉 | | 〈支出〉 | | (円) |
|------|--------|------------|--------|-----|
| 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | |
| 助成金 | 61,057 | 見学：謝礼 | 17,958 | |
| 自己資金 | 0 | 源泉所得税 | 2,042 | |
| | | 燃料費(ガソリン代) | 2,048 | |
| | | 土産代(入居者等) | 6,900 | |
| | | 雑費 | 1,300 | |
| | | 研修会：講師謝礼 | 10,000 | |
| | | 源泉所得税 | 1,137 | |
| | | 交通費 | 15,000 | |
| | | 研修資料印刷代 | 1,872 | |
| | | 雑費 | 2,800 | |
| | | | | |
| 計 | 61,057 | 計 | 61,057 | |

II 資 料

- 令和 5 年度支部活動等助成事業実施要項
- 令和 5 年度支部活動等助成事業実施支部一覧
- 大阪生活サポート協会事業の理念と概要

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会 令和5(2023)年度 支部活動等助成事業実施要項

(助成事業の目的)

1. この事業は、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会(以下、大阪生活サポート協会という。)定款に則り、知的障がい児者・自閉症児者(以下障がい児者という。)とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的とした「支部活動等」に対し助成を行う。

(定義)

2. 「支部活動等」とは、大阪生活サポート協会会員(「生活サポート総合補償制度」に加入する者)が所属する施設・事業所等(以下、支部という。)の実施する事業及び複数の支部等が実施する協働事業をいう。

(助成の対象)

3. 助成事業の申請は、大阪生活サポート協会会員の所属するすべての支部を対象とする。

(助成対象事業)

4. 各支部が行う、次の事業に対し助成を行う。
 - (1) 障がい児者の日常生活支援に関する事業
 - (2) 障がい児者の就労支援に関する事業
 - (3) 障がい児者の権利擁護に関する事業
 - (4) 障がい児者の文化・芸術・スポーツ、地域交流、地域貢献等の事業
 - (5) 障がい児者の支援に従事する者の人材育成に寄与する事業
 - (6) コンサルテーション事業
コンサルタントによる相談・助言・情報提供等
 - (7) 地域(地区ブロック内)の複数の支部が、或いは複数の地区ブロックが協働して行う事業
〔例：利用者参加型余暇支援活動、支援者や家族対象研修会、グループホーム世話人研修会など〕
 - (8) 防災に関する事業
防災に関する研修等
 - (9) 家族(保護者会・家族会等)と協働で行う家族支援活動〔例：家族対象の研修会・催し物の開催〕に関する事業 ※助成申請は支部を通じて行うこと
 - (10) その他目的を達成するために必要な事業

(選考基準)

選考に際しては、次の各項を勘案します。

- (1) 施設・事業所等の備品購入、補修、改修等に関する費用は、原則として助成対象としない。
- (2) 新規申請支部を優先する。
- (3) 緊急性が高いと判断される事業
- (4) 先駆的、独創的な事業で、その効果が期待される事業
- (5) 継続的な活動により、その効果が期待される事業(研修会・地域交流・人材育成等)

(助成対象期間)

6. 令和5年4月1日から令和6(2024)年3月31日までの間に行われる事業を対象とする。

(助成金の範囲)

7. 支部活動等に対する助成金は、毎年度ごとの予算額の範囲内とする。
 - (1) 支部活動等への助成は年度内1回限りとし、助成額については、事業内容・参加人数等を考慮する。会員5人以下：7万円、6人～10人まで：15万円、10人以上：20万円を上限とする。
※会員数については、この要項の送付封筒の宛名シール右下の数字が現在の貴事業所の会員数です。
 - (2) コンサルテーション事業については、1支部15万円を上限とする。

(3) 下記に示す地区ブロック内の複数の支部が協働事業を実施する場合は、事業内容・参加人数等を考慮し、30万円を上限とする。

(4) 複数の地区ブロックが協働事業を実施する場合は、40万円を上限とする。

※ 地区ブロックとは「北摂、北河内、中河内、南河内、泉州、堺市、大阪市」である。

※ (3)(4)については、「大阪生活サポート協会」の協賛事業とする。

(手続き)

8. 助成金申請に関する手続きは下記のとおりとする。

- (1) 申請する支部は、様式1-1号・1-2号にて大阪生活サポート協会理事長あてに申請書及び予算書を提出しなければならない。(郵送)
- (2) 事業実施した支部は事業終了後1ヶ月以内(厳守)に様式2-1号・2-2号により、事業報告書及び決算報告書を提出しなければならない。ただし、令和6(2024)年3月中に事業実施した場合は、同年4月20日(厳守)までに報告書を提出しなければならない。
- (3) 事業実施前、あるいは途中において内容の変更がある場合は、様式1-1号・1-2号により変更箇所を明らかにし、再度提出しなければならない。
- (4) 手続きに関する実施要項・様式は、当大阪生活サポート協会ホームページのお知らせ・事業ページ〈支部活動等助成事業〉に掲載(添付)している。(ダウンロード可能。)

(審査/結果通知)

9. 提出された申請書に基づき理事会で審査した後に、助成の可否について申請した支部に通知する。

- (1) 助成決定支部には、助成額及び事業報告書・決算報告書(様式2-1号・2-2号)等について、メールあるいは文書にて通知する。

(助成金の交付)

10. 事業終了後1ヶ月以内に提出された事業報告書・決算報告書を理事会で審査した結果、適切な執行と認めるときは、原則令和6(2024)年3月末までに指定の口座に振り込むこととする。
なお、決定した助成額の1割を自己負担とする。

(申し込み締切日時)

11. この事業の申し込み期日は、令和5(2023)年8月末日までとする。(当日消印有効。)

12. 事業実施するに際して、以下の点に留意すること。

- (1) 複数の支部或いは複数のブロックの協働事業の場合は、大阪生活サポート協会の「**協賛事業**」とし、単一の支部で事業実施の場合は「**助成を受けている**」とし、その旨をホームページ上、配布物や行事案内に明示すること。

なお、事業実施後に大阪生活サポート協会へ提出する報告書には明示されている状況を確認できるもの(配布物、写真等)を添付すること。

- (2) 大阪生活サポート協会との「**協賛事業**」或いは「**助成金を受けている**」旨を明示しない場合は、助成しないものとする。
- (3) 助成対象事業は、令和5年4月以降の事業を助成対象とするが、助成決定時すでに実施済みの場合は、助成後事業所等の発行する機関紙等で、「**協賛事業**」或いは「**助成金を受けた**」ことを広報するとともに、当該年度の事業報告書にもその旨を明示することとする。

附則 令和5年4月1日施行

～問い合わせ先・申請書類の提出先～

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会

〒542-0012 大阪府中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館3F

TEL: 06-6764-6889 FAX: 06-6770-5988

E-mail: kyokai@osakasupport.or.jp

一般社団法人大阪生活知的障害児者生活サポート協会
令和5年度 支部活動等助成事業実施支那一覽

| No | 法人名等 | 支部名 | 助成決定金額 | 実金額 | 加入者数 | 実施事業概要 |
|----|-------------------------|-----------------|---------|---------|------|---|
| 1 | (社福) 武田塾 | 高井田苑 | 200,000 | 200,000 | 47 | 「非常用電源装置の整備」 令和5年9月16日 施設入所支援とグループホームを運営。以前、台風時に停電となり復旧までに時間がかかり、特に夜間帯であったため利用者に不便な思いをさせてしまった事例があった。今回、停電時に生活に必要な最低限度の電気を供給できる発電機の整備の必要性を痛感し、購入に至った。購入後は、試運転を兼ねて施設行事の際に発電機を使用して稼働手順の確認・周知を行った。今後は、職員に向けて防災意識を高める周知はもちろろん、避難訓練や行事等で使用実績を重ね、過去の教訓を活かして災害時の効果的な活用に役立てられるようにしたい。 |
| 2 | (社福) 踏交館 | ういず滝井 | 70,000 | 70,000 | 2 | 「利用者一泊旅行の実施」 令和5年9月28～29日 旅行まで、企画を利用者会議で決定した。旅行までの過程を大切に、自分たちで計画し進めていくことを通じて、自信につなげることができた。コロナで縮小してきた旅行であったが、今年度は少し遠方の淡路島に行くことができた。一番力を入れた宴会では生活介護の利用者が練習の時には参加しなかったが、当日の宴会時にはセンターで踊った姿があった。イングラントの丘では各チームで行動し満喫した。帰りのバスでは「来年も淡路島に行きたいね～来年は2泊したい」の声が上がるとともに、多くの参加があった。今後は、利用者主体の支援を目指していきたい。 |
| 3 | (社福) ゆうとおん | ゆうとおん | 60,000 | 60,000 | 6 | 「ゆうとおんねん祭りの開催」 令和5年11月11日 4年ぶりの開催となったが、コロナ前と変わらぬくらい他事業所、地域住民、ボランティアに多数参加していただいた。特に今回は中学生・大学生がボランティアとして活躍し、各模擬店での販売、お化け屋敷のお化けの役、後片付けなども積極的に行っていただいた。また、来年も参加したいとの言葉もいただいた。地域の方たちも久しぶりの開催に関わらず、子供連れでの参加など、とてもにぎやかな祭りとなった。開催するまではまたコロナ禍は収束しておらず、どのくらい参加があるか不安であったが、多くの参加を頂き開催できたことが本当に良かったと感じた。このままコロナが収束していけば毎年継続して開催していく予定である。 |
| 4 | (社福) 大阪府障害者 福祉事業団 | じよぶライフ だいせん | 140,000 | 134,700 | 26 | 「音楽鑑賞・食事会の開催」 令和5年12月2日 利用者、職員、家族との親睦を兼ね、コロナ禍でストレスを感じている利用者の楽しみと職員のモチベーションを向上するために実施した。重度、高齢の利用者がみんなで楽しむことができた。大好きな音楽に合わせてリズムをとり、ステージに出て踊ったりと楽しんでいく様子が見られた。身体を動かした後は、キッチンカーでの食事会を実施、ゆとりとした時間を設けることで、リラックスして穏やかに過ごすことができた。沢山の笑顔と良い思い出をつくることができた。今後は、利用者の楽しみも一つとして音楽鑑賞と食事は実施していきたい。また、利用者の想いを大事にしながから、職員間のコミュニケーションも図っていききたい。 |
| 5 | (社福) 大阪手をつなぐ 育成会 | 支援センター ねぎぼうず | 150,000 | 150,000 | 7 | 「日帰り旅行の実施」 令和5年10月6日 社会見学や体験を通じて人々と交流し、物づくりや食文化の歴史・大切さを学び見聞を深めるとともに、買い物や屋敷を通じた社会マナーやエチケットを学ぶ。またコロナ禍で家族との交流があまりなかったため、旅行を通じて交流を深めることを目的に実施した。4年ぶりの実施となった。シャープミュージアムではシャープの歴史を通じて物作りの大変さ等を学んだ。また、柿の葉寿司作り体験では、普段家庭でも調理することのない寿司作り利用者も頑張っており組んでいた。家族との交流では普段なかなか会う機会の少ない家族も参加され、利用者の家庭での普段の様子、事業所への思いを聞くことができた。また、また事業所での様子を伝えることができた。 |
| 6 | (株) Cocofeel | 三ーサ | 49,230 | 49,230 | 2 | 「日帰り社会見学旅行の実施」 令和5年11月22日 日頃体験できない事を楽しみながら経験したり、集団での行動を学ぶために実施した。参加した利用者全員が乗船経験は初体験であり、海でのクルージングの楽しさを体験してもらったことができた。また乗船時の順番で並ぶ、狭い船内で他の乗客に迷惑をかけるような行動をしないなど集団で移動する事の大切さも感じてもらえたと思う。この体験を生かして、集団行動を学び、外出先での社会生活をしっかりと行えるように、また、未だ経験していない事に対してもしっかりと進んでいくと考える。 |

一般社団法人大阪生活知的障害児者生活サポート協会
令和5年度 支部活動等助成事業実施支部分部一覽

| No | 法人名等 | 支部名 | 助成決定金額 | 実金額 | 加入者数 | 実施事業概要 |
|----|------------------------|--------------------|---------|---------|------|--|
| 7 | (社福) 大阪手をつなぐ 育成会 | 支援センター中 支派センター中 | 150,000 | 150,000 | 7 | 「日帰り旅行の実施」 令和5年10月8日、11月10日、11月15日 利用者の交流を目的に実施した。事業所別・介護度で分かれ、利用者の希望を確認しプラン作成。生活介護については、集団での活動は久しぶりであったが、過去の経験を活かしたのか、集団から離れず行動できていた。電車利用のグループは過去、切符購入支援を行ったことにより、ほとんどの利用者がスムーズに購入、改札利用ができた。就労継続B型については、日程を理解し行動することができた。今回感じたことは、新型コロナウイルスの影響により、長期間外出制限がかかった影響からか、以前より歩行力が低下している。今後のプログラムの中で歩行力の向上に努めたい。 |
| 8 | (社福) ひびき福祉会 | アクティビティセンター ひびき | 150,000 | 150,000 | 6 | 「親睦一泊旅行の実施」 令和5年10月5～6日 外出の機会が少ない重度障がい者の余暇と社会参加の機会とし、利用者同士の親睦を深めることを目的に実施した。コロナ禍で3年間実施できなかった旅行のため、今まで1回も旅行に行っていない利用者や職員がいたが、事故もなく様々な体験ができ、楽しい取り組みとなった。車いすを利用する利用者も多く、助成のおかげでリフト付き大型バスを確保することができ、安全に行き、旅行前に全員の抗原検査と職員のPCR検査を実施し、全員の陰性を確認し、宿泊も大部屋はやめて、少人数での部屋割りとし、感染防止に努めた。 |
| 9 | (社福) 北摂杉の子会 | 萩の社 | 150,000 | 150,000 | 53 | 「北摂杉の子会 収穫祭2023・子ども食堂の開催」 令和5年10月30日～11月3日 収穫祭では、農園で育てているサツマイモを利用者が収穫し、焼き芋を作った。また「子ども食堂」として、利用者、家族(子ども含む)、地域住民など全ての参加者に焼き芋の無料配布、農園で作った野菜を食材としたカレーライスをワンコインランチとして提供した。久しぶりに法人関係者と地域が繋がることのできる場所をつくる事ができた。収穫祭はさつまいもの収穫から焼き芋を食べることがメインになっているが、他の食材も今後増やしていきたい。また、カレーライス販売では、事前のチラシ配布、ポスター等を行ったが、満員の来場とはならなかったため、今後は新たな宣伝方法を検討するつもりである。 |
| 10 | (株) アペリア企画 | ハミガキ広場 | 70,000 | 70,000 | 1 | 「ハミガキ広場ファミリーデー・親睦会及び新事業所立屋お披露目会の開催」 令和5年11月3日 家族に対して、事業所移転により新社屋の事業所の立地・設備等を確認していただくために事業所見学会を実施。利用者についてには調理実習の成果を発揮してもらい調理用品を親睦会のおもてなしとして提供した。出席者とのコミュニケーションを通じて、協働性等の対応力の向上を図ることができた。協力企業には、食事場面を通して常に作業を行っている利用者や懇話会を運営しているスタッフに関しては、日頃作業場面ではうかがうことができない利用者の様子を見ることができたことと、家族や関係者との意見交換を通して親睦を図ることができた。 |
| 11 | (一社) 惣 | アトリエ SUYO | 70,000 | 70,000 | 1 | 「大阪チャチャヤバンド道頓堀クルーズ演奏の実施」令和5年4月5日 音楽活動をしている障がい者たちが音楽バンドとして活躍し、すばらしい楽曲を演奏していることをより多くの大阪市民・国内・外国人観光客などに知ってもらうことを主な目的に実施。道頓堀クルーズ船上で演奏し、不特定多数の人に障がい者とそのサポートミュージシャンとの混成バンドの演奏を聞いていただくことができた。多くの人たちに音楽を通して社会的障壁を超えて共に生きるあり方を伝えることができたと考えた。動画を作成しインターネット(YouTube)にて配信した。 |
| 12 | (一社) 穂穂(のんのん) | のんのん | 44,640 | 44,640 | 2 | 「スポーツ大会の実施(ポッチャセットの購入)」 令和5年11月8日 助成金で購入させていただいた、ポッチャセットを使ってスポーツ大会を実施した。手作りのボールなどで日頃よりポッチャを取り入れていたので、昔ルールもよく理解しており、今回新しい本物のポッチャセットを使用して競技できたことをとても喜んでいました。手ごたえもいつもよりあったようで、集中して競技を行うことができた。今後の取り組みの一つに取り入れることで、地域の競技に参加して、地域の方々々と交流するきっかけなど考えたい。また、日頃から少しずつ体を動かす機会になるように活用していきたい。 |

一般社団法人大阪生活知的障害児者生活サポート協会
令和5年度 支部活動等助成事業実施支那一覽

| No | 法人名等 | 支部名 | 助成決定金額 | 実金額 | 加入者数 | 実施事業概要 |
|----|---------------------|----------------|---------|---------|------|---|
| 13 | ナポレオンフイツシュ (NPO) | ナポレオン フイツシュ | 70,000 | 70,000 | 2 | 「災害時における非常用照明の設置」 令和5年10月21日、11月20日 事業所の洗面所・トイレ個室等の照明を停電時でも利用できるようにポータブル電源を購入し、照明はポータブル電源から供給できるように回線工事を行った。事業所内の洗面所・トイレは暗く等時照明が必要であり、災害時に停電すれば使用できない状況であったが、今回設置したポータブル電源により、停電時でも連続3時間照明を点灯続けることができ、トイレや洗面所を使用するだけであれば数日利用することができるようになった。また、ポータブル電源は持ち出すことも可能なため、災害時に必要な場所で使用したり、車のシガーライターからも充電可能であるため、様々な用途に使用することが可能となった。 |
| 14 | (社福) 摂津肴和会 | 摂津市立 みきの路 | 200,000 | 200,000 | 29 | 「スポーツフェスタ2023 ～Enjoy sports～の開催」 令和5年11月23日 関係団体やボランティアとの協働のもと、摂津肴和会の各施設が一堂に会し、スポーツを通じて利用者の健康維持・増進と利用者・職員・ボランティアとの交流を図ることを目的に実施した。7年ぶりの法人全体行事として、今までの運動会から趣向を変えて、「スポーツフェスタ2023」と題して、心機一転の行事として実施した。天候に左右されない体育館を会場とした。完全ハリアフリーで障がい特性に応じて個別対応可能なスペースもあり、利用者にも快適に参加いただけたと考える。法人職員が一つの目的の向かい一致団結して取り組めたイベントとなり、今後地域に貢献し続ける法人であるための一体感を持つことができた。 |
| 15 | (社福) みきた福祉会 | みきた作業所 | 70,000 | 70,000 | 4 | 「皆がひとと息づけるスペースの設置」 令和5年10月23日 「より安全により快適」を目的とした活動を充足させるために、リラククスできるスペースを作り、環境整備を行うために設置。畳ベットの小上がりスペースを設置、ソファなどと組み合わせて体を休められるスペースとした。設置の結果、昼休憩時に行き場を見失っている利用者も自然と足を運ぶようになっている。他者と一緒に集団生活に取り組むことが苦手な方に、同じスペースでありながら自分も落ち着ける場所があることで、一緒に過ごすことが可能となれるように活用していきたい。 |
| 16 | (株) オールケア旭 | オールケア旭 | 70,000 | 70,000 | 1 | 「災害時における電源確保のためのポータブル電源の購入と避難訓練」 令和5年11月14日 医療的ケアが必要な利用者が半数以上占めている。災害時における電源確保のためにポータブル電源を購入。あわせて避難訓練を実施した。ポータブル電源は重量はあるが1人で持ち運び可能であり、接続ケーブル等はわかりやすく、簡単に接続可能である。人工呼吸器・電動椅子への接続確認を行い、安定した電気が供給できることを確認した。今後は屋外での活動等にも使用して非常時に対応できるよう職員への周知・研修の機会をもち利用者の生活が安全に楽しく豊かになるように考えて活用していきたい。 |
| 17 | (社福) 今川学園 | 今林の里 | 150,000 | 150,000 | 9 | 「今林の里 ミニさとまつりの開催」 令和5年11月5日 従来から実施していた「さとまつり」を楽しみにしている利用者もおられることから、規模を少し縮小した形で、利用者、家族、職員が楽しみながら交流できるイベントとして企画、実施した。キッチンカーによる出店、ゲーム屋台の設置等も行った。キッチンカーは珍しいため、利用者も楽しみながら飲食を行った。ゲームコーナーは1階と2階に分かれて設置し、密にならないように心がけた。また、ボランティアの方にご参加いただき、利用者も久しぶりに外部の方との関わりを持つことができた。コロナ禍で利用者と家族も一緒に活動する機会が減っていたため、久しぶりにイベントを楽しんでいただくことができた。 |
| 18 | (社福) 踏光館 | 桜の園 | 150,000 | 150,000 | 33 | 「利用者一泊旅行の実施」 令和5年9月25～26日、9月28～29日、10月2～3日 行動は、チーム単位とし、行きたい場所や食事場所など事前に利用者何人も話し合い、旅行へのイメージも作っていった。基本チーム単位での活動としたこと。自分の意見が言いやすく、支援員も把握しやすく、移動も余裕を持って行うことができたので、予定通り行きたい場所を周り、利用者も旅行を満喫することができた。旅行の振り返りでは、自分と一緒に行動していた利用者の様子を楽しそうに話すなど、チーム活動とした意義を感じることができた。今後も、当事者主体の活動を動めていきたい。 |

一般社団法人大阪生活知的障害児者生活サポート協会
令和5年度 支部活動等助成事業実施支部分一覽

| No | 法人名等 | 支部名 | 助成決定金額 | 実金額 | 加入者数 | 実施事業概要 |
|----|----------------------------|---------|---------|---------|------|--|
| 19 | (社福) いわき学園 | いわき生野学園 | 170,000 | 170,000 | 25 | 「いわき生野学園 夏祭り2023の開催」 令和5年8月5日 夏祭りを通じて、地域住民および利用者、家族との交流を目的に実施。3年ぶりの開催であったため、普段来園されない家族や地域の方から「懐かしい」「楽しかった」との感想が聞かれた。利用者も久しぶりのダンス発表会で緊張した表情であったが、終わった後の拍手に笑顔がこぼれていた。初めて抽選会を行ったことで、地域の方や家族も祭りの最後まで楽しめている様子が見えた。 今後、イベントを開催し、外出の機会を創出することで、「楽しい”生活を取り戻してもらえるような企画を考えたい。 |
| 20 | (NPO) ネクスト | はぐはぐ | 70,000 | 70,000 | 4 | 「冬の自然を楽しむ(六甲山スノーパーク)」 令和6年1月27日 冬の自然を楽しむという事を目的に実施。スキーやそり遊びを楽しんだ。スキーの班は、全員初めての経験という事でインストラクターに教えていただき、講習の最後ではリフトに乗り、上から滑れるようになった子ども達もいた。そりの班は、そり遊び、雪合戦等、各自楽しむことができた。コロナ禍で、学校行事が中止になりスキー体験ができなかった児童や、なかなか自然に普段接することのできなかった児童が、冬の自然に触れることができた。 |
| 21 | (社福) 踏文館 | ういず守口 | 150,000 | 150,000 | 29 | 「利用者一泊旅行の実施」 令和5年10月27～28日 重度の生活介護の利用者にとっては、仲間と共に過ごす時間は大切であり、年に1度のメンバー旅行は、メンバー同士で話し合いを重ね、旅行を実施したことは自分たちの自信につながることができたと考えられる。また、共通の思い出ができたことで親密度が向上し、より仲間作りを進めていくことに効果的であった。職員も利用者の笑顔と思い出を共有することができ、宿泊訓練の経験もすることができた。また、職員・利用者共に旅行の体験の積み重ねの大切さを感じることができた。 |
| 22 | (社福) 富翔会 | わくわく富田林 | 200,000 | 200,000 | 12 | 「合同ソフトボール練習(ユニホーム等の作製)」 令和6年1月8日 購入させていた法人オリジナルTシャツとキャップを着用し、フレンドシップソフトボール参加経験のある他法人事業所と合同のソフトボール練習会を実施した。他法人の利用者と準備運動、キック練習、守備練習、打撃練習を実施し、大会に向けてお互いに法人交流を深めながら、練習することができた。大会経験のある法人と練習したことで、利用者から「今度、いつするん？」「また、やろうな」など意欲の向上が伺えた。また、他法人の利用者、職員との交流を図ることができた。 |
| 23 | (NPO) チャレンジド・ネット いずみ | とどろ | 85,000 | 70,000 | 2 | 「とどろ設立10周年お祝いの会の開催」 令和5年12月22日 自立訓練事業所「とどろ」の10周年を「クリスマス会」「忘年会」として、利用者・職員共に楽しんだ。イベントの企画を利用者が主体的に行うことで、計画性や成功体験・失敗体験の場とした。また記念品配布を通して、地域と繋がりが、障がい理解の啓発とした。イベント当日は、利用者がいつもと違うランチやゲームを楽しめたことはもちろん、事業の目的を踏まえてどんな内容にするのかと利用者が主体的に取り組めるイベントになった。記念品は利用者がデザインを考え、日頃お世話になっている関係機関や企業に挨拶として利用者が訪問した。関係者との繋がりを再認識できたイベントとなった。 |
| 24 | (社福) バオバブ福祉会 | えるで | 200,000 | 200,000 | 35 | 「バオバブとみんなのWA2023の開催」 令和6年3月20日 今回は、1月1日にあった能登半島地震をふまえて、「人と人のつながり、安心・安全の街づくりを求めて、1つ1つ大事な命に寄り添える街を」をテーマにした。内容としては、松原市危機管理課と松原防災士会による防災学習会。当事業所・地域団体による自主製品の販売、利用者・ボランティアによるゲームコーナー・模擬店の出店、地域団体による販売・出店などを実施した。(ごども食室も同時開催) 楽しみを通じて、防災を考える良い機会となったとともに、人と人のつながりがりを実感することができた。今後、このイベントを通じて多くのつながりを作り、「共に地域でいきいきと」できる関係を作っていく機会としたい。 |
| 25 | (社福) 豊生会 | 四季の森 | 200,000 | 200,000 | 43 | 「食事会の実施」 令和6年3月21日 食べたいものを選択して食す。いつもと異なる食事形態で提供する事で施設内での気分転換につなげることを目的に実施した。昼食時に出席による回廊による回廊を確保。各自が好みのものをもって食事をした。また、おやつにはキッチンカーによるクレープを提供、各自で注文して食べていただいた。少しでも外食気分を感じてもらうために、野外にて飲食スペースを確保した。自分で選んで食べる美味しさや楽しさを感じてもらったことと考える。施設内であってもいろいろな行事の取入れが可能であると感じた。 |

一般社団法人大阪生活知的障害児者生活サポート協会
令和5年度 支部活動等助成事業実施支部分一覽

| No | 法人名等 | 支部名 | 助成決定金額 | 実金額 | 加入者数 | 実施事業概要 |
|----|--------------------|-----------|---------|---------|----------|---|
| 26 | (社福) 明星福祉会 | 芥川事業所 | 70,000 | 70,000 | 1 | 「障がいのある人たちの意思決定と社会参加促進のための余暇支援の実施」 令和5年12月～令和6年3月 法人各事業所との協働事業として集団で公共交通機関や公共の場を利用する体験を経験していただくために実施。事前に複数の日帰り旅行のコースを提示して、職員を進行役としてグループディスカッションを行い、個々の利用者が参加したいコースを選択して、それぞれのコースに分かれて見学を実施した。利用者自身が職員から情報を得て自分が希望した企画に参加する、自分で風食を選ぶ、自分なりの楽しみ方を見つける等の経験が、利用者の自己選択や社会参加の促進に少しも役立ったのではないかと考える。 |
| 27 | (社福) ふたかみ福祉会 | はびきの園 | 150,000 | 123,940 | 23 | 「地域交流の祭りの開催」 令和6年3月20日 「支部と地域交流のお祭り」という企画にて実施。利用者、家族、地域相互の交流を図ることができた。当日は138名の入場者があり、事業所の日々の取組や障がいのある方の人権啓発等のパネルを製作し、展示を行った。野外での取組みであったが、利用者も参加し、訪れた方にもパネルを使って日々の取組を職員と共に紹介し交流することができた。楽しみながら施設のことを知っていただくためキッチンカー、屋台を設置し、訪れた方をもてなしながら、障がいのある方の「働く」や地域での啓発活動などを掲示し、その様子をSNSを通じて公開し、当日来られなかった方や多くの人に発信を行った。 |
| 28 | (社福) 和光福祉会 | 熊取療育園・つばさ | 300,000 | 243,991 | 48 10 | 「合同外食の実施」 令和6年2月8日 当法人のGHF「つばさ」には熊取療育園から移行された利用者が多数在籍しているが、相互の利用者同士の交流が絶えているため、合同の外食を実施した。以前は法人のイベントなどの全体的な催しがあったものの、コロナ感染予防のため、なかなかそうだった機会が数年持てずにいたが、当日は、食事や演奏会、ティータイムを楽しむことができた。いつもと違う雰囲気での交流が深める事ができた。 |
| 29 | (社福) 大阪聴覚障害者福祉会 | あいらぶ工房 | 150,000 | 150,000 | 7 | 「災害時電源確保のためのポータブル電源の購入」 令和6年1月26日 施設開所中の災害発生に備えポータブル電源を整備した。パソコンや施設スマートフォン等の機器を稼働させて、災害の情報収集及び家族との連絡や救助発信に使用する。このたびは助成を受けて整備できたことで、湯を沸かしたり、冷蔵庫、サーキュレーターを稼働することが可能となった。また実際に稼働するところを目前にして、職員や利用者の災害対策への意識が高まった。今後、追加の充電池やソーラーパネル購入の検討、非常食や飲料水を切らさない等、災害時の準備を進めたい。 |
| 30 | (社福) 大阪手をつなぐ育成会 | グーテン | 70,000 | 70,000 | 5 | 「コンサルテーション事業の実施」 令和5年11月～令和6年3月 目的：強度行動障がいのある利用者への専門的な支援手法を学び、事業所内の支援力の底上げ及び連携強化につなげることを目的に実施。 内容：強度行動障がいのある支援専門家によるコンサルテーション(4回実施)。高齢利用者中心から、若年層の行動障がいのある利用者の支援に移行しつつある事業所において、障がい特性に合わせたシステムや仕組みの導入は、事業所にとって新たな一歩を踏み出す機会となった。支援手法を学んだことで、利用者に変化が生まれ、職員の意識の変化意欲の向上にもつながった。 |
| 31 | (合同) 美ノ倉 | やすらぎの苑 中津 | 70,000 | 70,000 | 1 | 「日帰り旅行の実施」 令和5年10月28日 コロナ禍により施設外での活動や、人との交流が薄れており、コミュニケーションが減少しており、コミュニケーションスキル向上や協調性を学ぶ機会として日帰り旅行を実施した。入場者も多し、各グループが集団活動におけるマネージャーやモラルを守り協調性を養ってもらうことができたことと考える。就労の機会としてもパーク内で働く人はどんな仕事をしているのかなど、見てもらいながら各グループで計画したところを回った。一人ひとりが時間がマナーを守り、いつも以上にスタッフ・メンバー間のコミュニケーションが図れた。 |
| 32 | (社福) 和泉つくし福祉会 | さらの郷 | 159,000 | 61,057 | 11 | 「人材育成及び専門性向上のための研修会等の実施」 令和6年3月2日、3月15日 当法人が、共同生活援助事業の開設をまじかに控え、運営に関する実務的なノウハウを直接学ぶ機会として、地域の中で先進的に運営されている事業所を見学した。また、講師を招き、強度行動障がい等の支援の在り様に関する内容をテーマに研修会を実施した。研修では構造化支援の取組み事例などの貴重な話を聞くことができた。見学・研修を通じて、「悩んでいることや困っていることを素直に投げかけてヒントを得られたこと」が何よりの成果であったと感じた。「新たな気持ちでチャレンジしよう」という思いを職員間で分かち合えたことが大変うれしく感じた。 |

理念

大阪生活サポート協会は、全国生活サポート協会と連携し、助け合うという「互助」の精神を柱に、知的障がい児者・発達障がい児者の皆さまをかけがえのない存在として捉え、安全・安心に、より豊かな生活が送れるよう支援しています。



一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会（全国生活サポート協会）は、2006（平成18）年11月に知的障がい児者・発達障がい児者とその家族の生活上での安全・安心と福祉の増進に寄与する事を目的として設立されました。

現在、全国46箇所の知的障害児者生活サポート協会（生活サポート協会）と連携し活動しています。

※令和6（2024）年度より「生活サポート総合補償制度」の加入要件に発達障がい児者を加えることになりました。（自閉症児者は発達障がい児者の中に含まれます。）

事業と補償制度

大阪生活サポート協会は、知的障がい児者・発達障がい児者が地域の中で「自分らしく生きる」ために各種事業と補償制度で支援しています。

会員・その家族、支部（事業所等）支援

会員（本人）支援

- 日常生活支援
- 集まれ GH（就労生活等支援）
- 表現活動支援
（作品展示会の開催）
- 権利擁護
- スポーツの振興
（スポーツフェスタなど）

家族支援

- セミナー
- 研修会 など

支部（事業所等）支援

- 支部活動等助成事業
（本人参加型事業、人材育成など）
- 地域密着型活動支援
（他団体及び事業所間連携・協働による事業 など）

地域支援

地域における支援力向上

表現活動支援

- 作品展示
（ホームページ、作品展示会）

人材育成（支援者支援）

- 研修会等の開催
- 他団体及び法人間連携・協働事業の推進

調査研究

- 共同生活援助（GH）の実態調査 など



相談（365日・24時間）

困ったとき、いつでも

電話相談

- なんでも相談
- 『補償制度』に係る相談



ホームページ「問合せコーナー」からの相談

- 『補償制度』に係る相談

↓

JICWへ転送

- その他なんでも相談

対面相談（予約制）

- 弁護士相談、税理士相談
- 社会保険労務士相談
- 『補償制度』に係る相談

補償制度

生活サポート総合補償制度（AIG普通傷害保険）



令和5年度 支部活動等助成事業報告書

令和6(2024)年7月 発行

発行人 安本 伊佐子
発行 一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
(大阪生活サポート協会)
〒542-0012 大阪府中央区谷町7丁目4番15号
大阪府社会福祉会館内
TEL : 06-6764-6889 FAX : 06-6770-5988
E-mail : kyokai@osakasupport.or.jp
URL : <https://www.osakasupport.or.jp>
